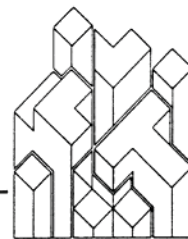


| |
|--------|
| モノグラフ |
| 中学生の世界 |
| vol.13 |

©1983. 株式会社 福武書店 教育研究所 / 加藤智博・賀川雅子・渋谷周子
奈良教育大学教授 深谷昌志・東京学芸大学助教授 深谷和子

中学生の生活体験



目次

| | |
|------------------------|----|
| 特集 ● 人間形成にとっての体験 | 2 |
| 調査レポート ● 中学生の生活体験 | |
| 本報告書の要約 | 5 |
| 第I章 欠けている生活体験 | |
| 1. 調査の概要 | 7 |
| 2. 生活の体験をめぐって | 8 |
| 3. 自然の体験をめぐって | 10 |
| 4. 情緒的な体験をめぐって | 11 |
| 5. 社会的な体験をめぐって | 13 |
| 第II章 体験の地域差と学年差 | |
| 1. 6つの地域 | 15 |
| 2. 生活の体験と自然の体験 | 16 |
| 3. 情緒的な体験と社会的な体験 | 19 |
| 4. 体験の学年差 | 21 |
| 第III章 生活体験と自己像 | |
| 1. 体験と自己評価とのかかわり | 24 |
| 2. 自己評価を支える体験 | 28 |
| 3. どんな体験が意味を持つのか | 29 |
| 4. 体験とバイタリティ | 32 |
| 第IV章 人間形成の中での体験 | |
| 1. 体験の重み | 35 |
| 2. 将来の職業に関連させて | 37 |
| まとめに代えて | 40 |
| 資料1 調査票見本 | 42 |
| 資料2 学年・性別集計表 | 54 |

●特集

人間形成にとっての体験

奈良教育大学教授 深谷昌志



体験からの隔離

中学生を対象としたテーマに、なぜ「生活体験」を取り上げる必要があるかについて疑問を感じる向きもおられよう。確かに、従来、生活体験は、主として幼児、もしくは小学生の問題として考えられてきた気がする。しかし、現代の中学生たちの成育史を調べてみる

と、成長のスタイルに歪みを伴っているという印象を強く抱く。

数年前、調査の必要があって、合掌造りで知られる飛弾高山の白川郷を訪ねる機会があった。誘われるままに、昔からのたたずまいを残している家の中に入ってみた。何よりも

まず暗い。ガラスがないので外からの光が入りにくい。電灯がついていないので、外との明るさの落差が大きく、暗さに慣れるまで歩くことができない。次に、けむたいのに気づく。薪を燃やして暖をとっているのに、煙が家中に充満している感じになる。そのうえ、障子をとおして外気が入ってくるので寒い。

考えてみると、長い間「暗く、けむたく、寒い(あるいは暑い)」というのが、家だったのであろう。そうした自然の中での暮らしはあまりにも厳しい。そこで、障子に代えてガラスを入れ、薪の代わりにガスを引き、さらに電灯をつけるなどという形で、人間の居住空間らしい環境作りが行われてきた。その結果、曲がりなりにも、われわれの居住環境が、自然からの隔離に成功したのは、ほんのここ二十年來のできごとであろう。

したがって、現在のおとなたちは、祖父や父の代ほどでないにせよ、自然の中での暮らしを体験している。しかし、現在の子どもたちは、ガラスがあり、電灯が付き、冷暖房の完備した生活環境の中で生まれ、育ってきている。したがって、子どもたちは、人工的な環境を環境そのものと感じている。その結果、一昔前の子どもたちなら、当然体験したはずの「寒さを感じる」「真っ暗な中で寝る」「風の強さを身にしてみても感じる」などの感覚が薄れてくる。

加えて、この二十年來、家庭電化製品の普及につれて、家事の合理化が著しく進んだ。長い間、家事労働の重さが女性たちを家庭の中に束縛してきたと言われる。それだけに、家事の合理化は、女性を家から解放する意味を持つ画期的なできごとであった。そうした効果は認められるものの、子どもたちの中に、

家事をしないで済むのをあたり前と思う感覚が育ってくる。確かに、ガス風呂になれば、薪割りは不要となるし、電気釜を使うようになれば、つきっきりで火の番をする必要もない。それに、家事が簡単になるので、子どもの手を借りなくても済む。そうしたことからご飯をたいたことも、洗たくをしたことも、ゴミを燃やしたこともない子どもが生まれてくる。

また、子どもたちの世界から遊び仲間が失われたのは、周知のとおりである。さまざまな町を訪ねても、遊びたわむれる子どもたちの声が消えた。かくれんぼ、鬼ごっこ、ビー玉、メンコ……と、かつての遊びを数えあげていくと、いずれも、戸外で何人かの友だちと、体を動かしながら遊ぶという性格を備えていたのがわかる。その他、たこあげや羽根つきから始まって、花火や雪合戦など季節に応じた遊びもあった。こうした友だちとの遊びをとおして、木登りや魚とり、蟬とりなど自然の中での体験を重ねることができた。

しかし、現代の子どもたちは、家の中にこもり、テレビを見たり、まんが雑誌に目をとおしたりして、夕方までの時間を過ごす。そして、ときたま外に出る機会は、けいごごとか塾通いに限られてくる。

確かに、テレビやまんが雑誌は手軽に楽しめる対象で、そうした「友」がいるのなら、何も無理をして、友を求めて、外へ出かけるまでもないのかもしれない。

そうした巣ごもりをする子どもたちは、わずかに勉強する時にだけ意欲を見せる。机に向かい、問題を解いていけば、親たちも満足してくれる。子どもにとって勉強は、巣ごもりをするための免罪符のような機能を果たしている。

間接体験の肥大

しかし、厳密な言い方をすれば、現在の子どもたちを単に「体験の欠如」としてのみとらえるのは妥当性に欠ける。具体例をあげてみよう。毎年、夏休みに子どもたちをつれて海外へ出かける機会が多い。グアムやサイパンでのキャンプやアメリカ本土でのホームステイなどである。そうした折、子どもたちを見ていると、隔世の感を抱く。

ダイヤモンド・ヘッドを臨むワイキキの浜辺を歩く。あるいは、ケーブルカー（今は運転休止中だが）に乗って、フィッシュマンズワーフに行く。そして、ディズニーランドで一日を過ごす。子どもたちは、一見とまどうことなく、楽しい一日を過ごしている。考えてみれば、ワイキキの浜辺やサンフランシスコのケーブルカーは、テレビのCMでなじみ深い。したがって、ダイヤモンド・ヘッドを見ても、テレビで知っている光景を追体験しているにすぎない。

「百聞は一見にしかず」というが、もちろん、テレビで見たものを一見と言えるかどうかには疑問が残る。ケーブルカーひとつとっても、実際にフィッシュマンズワーフへ行くためには、時には乗り換えが必要だし、それに乗り場がわかりにくい。料金の払い方がわからないなどとまどうことが少なくない。しかし、そうした当惑は、実際に体験する時になって気づくものであって、CMフィルムを見ている時には、すぐにもケーブルカーに乗れる感じがするものである。

テレビを見ていると、時間や空間を越えてさまざまな情報がとび込んでくる。そうした情報は、改めてふれるまでもなく、一種の間接体験なのだが、直接体験をしているような

迫力を持って視覚にとび込んでくる。しかも直接体験を重ねる以前に、テレビをとおして間接体験を蓄積していく。その結果、実際には体験していないことでも、体験をしたような錯覚に陥りやすい。

こうした状況はテレビに限らない。子どもたちは図鑑やまんが雑誌、ラジオなどをとおして間接体験をし、その結果、直接体験をしているような感じになる。家のまわりの土のぬくもりすら感じたことがないのに、月の世界の感じがわかるような気がするというわけである。ご飯ひとつたけないうちに、フランス料理の味がわかる。ボールを自分の手で受けたことはなくても、アメリカン・フットボールに精通している……などである。

つきつめて言えば、こうした状況は、間接体験の肥大と直接体験の縮小という形で要約できよう。しかも、直接体験の縮小が進むうちに直接体験が不足しがちという感覚も薄れてくる。

知識だけは豊富に持っているものの、日常的事物を含めて、ほとんど何ひとつ自分でしたことのないのが、現代の子どもたちである。見方によれば、そうした子どもの育ち方は、温室の中で純粋に培養された植物に似ていると言えるかもしれない。あるいは、人工的な環境のもとで飼育されるブロイラーを思わせるものもある。

以上、大まかに問題の指摘を試みたが、少し先走りしすぎたような気もする。まず、現実を見つめるという意味で、調査をとおして、子どもたちの現状を把握し、そこから得られる結果を含めて考察をすすめていきたい。

調査レポート

中学生の生活体験

奈良教育大学教授 深谷昌志

東京学芸大学助教授 深谷和子

本報告書の要約

このレポート『中学生の生活体験』は、今日よく言われるように、都市化に伴う生活環境の変化、子どもの生活時間構造の変化などによって、子どもが成長発達を遂げるために必要な各種の生活体験が質量ともに貧弱になってきているのではないかという問題意識から、生徒たちの生活体験を探り、それが特に生徒たちの自己像の形成にどう作用しているかを調査的に接近しようとするものである。

①調査テーマ

生徒たちの『生活体験』を「生活の体験」「自然の体験」「ショック体験」「攻撃の体験」「生死の体験」「リーダーの体験」の諸領域から点検し、それらの問題点と自己像の形成上のかかわりを探ろうと考えた。

②調査対象と方法

東京、千葉、静岡、山形の6つの中学校の1～3年生合計2,399人(表1)に、昭和57年6月、学校通しのアンケート調査で行われた。

(表1)―(1) サンプル構成

(人)

| 学年 | 性別 | 男子 | 女子 | 計 |
|----|----|------|------|------|
| 中1 | 男子 | 456 | 385 | 841 |
| | 女子 | | | |
| | 計 | | | |
| 2 | | 422 | 402 | 824 |
| 3 | | 351 | 383 | 734 |
| 計 | | 1229 | 1170 | 2399 |

(表1)―(2) サンプルの地域

(人)

| 地域 | 性別 | 男子 | 女子 | 計 |
|----|---------|------|------|------|
| 都市 | 東京都練馬区 | 76 | 83 | 159 |
| | 東京都杉並区 | 175 | 160 | 335 |
| | 千葉県市川市 | 445 | 389 | 834 |
| 農村 | 静岡県富士宮市 | 95 | 106 | 201 |
| | 千葉県茂原市 | 323 | 309 | 632 |
| | 山形県酒田市 | 115 | 123 | 238 |
| 計 | | 1229 | 1170 | 2399 |

③体験量の全体的不足

体験下位領域を点検すると、どの領域でも全体的にかつての時代と比べ、体験量の不足が感じられる。(P.9表2～P.14表7)

その中でも、男子に不足しているのは「生活の体験」で、女子に不足しているのは「自然の体験」「攻撃の体験」である。(P.9表2、P.11表3、P.14表6)

④人格形成上の問題

体験の下位領域のうち「生活の体験」は、生活者としての自立能力、「自然の体験」は生活圏の拡大、適応力や問題解決能力の拡大、トランスの増大を生み出し、「ショック体験」は情緒の発達(奥行きや幅、感受性)を促進し、「攻撃の体験」は人とのかかわりの能力を形成し、「生死の体験」は人生を教え、「リーダーの体験」は社会性を生み出すことに役立つものと考えられる。しかし、それぞれの領域にそれぞれ、不足の様相が見い出され、これらが今日の子どもの人格形成にさまざまな形での影響を落としていることが推定される。

⑤まだある地域差

地域差については、特に都市部に「生活の体験」「自然の体験」「生死の体験」が不足し、農村部ではやや「リーダーの体験」が不足している。(P.17表8、P.18表9、P.19表10、P.21表13)

⑥学年によって増加する体験

体験量は、学年が上昇するにつれて、トータルでは少しずつ増加するが、領域との関連

では、「生活の体験」「生死の体験」「ショック体験」のみが増加し、残りの「自然の体験」「攻撃の体験」「リーダーの体験」は、中学生段階では変化が少ない。「自然の体験」や「攻撃の体験」は、小学生かそれ以前の段階で、より十分に体験させるべきものであろうし、「リーダーの体験」は、比較的一部の層によって専有される傾向もありそうである。(P.22表14)

⑦「自然の体験」と「リーダーの体験」が特に重要な意味を持つ

体験の量が増すにつれて、明るい自己像を持ち、意欲的な生徒の占める割合が増す。また生活のあらゆる面で自分に自信を持つようになる。中でも「リーダーの体験」と「自然の体験」とは、自己像の形成に影響を与えている。(P.25表16、P.26表17)

すなわち、運動会のリーダーや学級委員などのリーダー体験も重要だが、それと同時に暗い夜道を歩く、カナヅチでクギを打つ、魚を網でとるなどの体験も、生徒たちのバイタリティを育てる傾向がある。(P.31表22)

また、物質的に豊かになるにつれて、体験が減る傾向も認められる。(P.34表25)

⑧体験と自己像との結びつき

生徒をトータルとして捉えた時には、体験量が学校差や性別差の規定をうけることは否定できない。そうした制約は認められるものの、体験が増すにつれて、将来に意欲的な見通しを持つ生徒が増加するのは確かである。(P.36表26、P.39図3、図4)

第I章 欠けている生活体験



1. 調査の概要

人間の日々の成長が「体験」によって生み出されることは、誰もが知っている。そのひとつの例が、最近の総理大臣かもしれない。失礼かもしれないが、総理になられる前から総理らしい風格のあった人など、最近では誰ひとりおられなかったと言っても過言ではないだろう。選出はされたものの、これで総理の格好がつくのだろうかなどと心配しているうちに、1か月もすると、けっこうそうした雰囲気だけをたよらせるようになる。人間は60歳70歳になっても「体験」によって、けっこう成長するものらしいと、妙なところで感心してしまう。これが10歳、15歳のヤングたちだっ

たら、一層その成長の幅は大きいだろう。

ところが最近の子どもたちを見ていると、どうもその心身の成長に必要な各種の体験を欠いたまま、年齢を重ねていっているように思えてならないのである。

「体験」と言えば、文字どおり自分の体で実際に体験することを指している。疲れるから、しんどいからと、実際の体験をせずに、他人の苦労話を聞いて、「登山は厳しいものだ」とか、「貧乏はつらいものだ」などと、わかったような気持ちになっているのは、ホンモノの体験ではない。これらは他人の体験をあたかも自分のものであるかのように取り入れ

ただで、「代理体験」「疑似体験」「間接体験」などと呼んだ方がふさわしい。

ところが情報化社会と呼ばれているような最近の生活環境の下では、子どもたちは間接体験の量だけを飛躍的に増化させ、逆に直接体験の方は減少する一方である。生活が万事便利になって家事労働が減少し、お手伝いの量が減ったこと、都市化に伴って自然が失われ、地域での子どもたちの生活も減少したこと、友だちとの遊びの機会も減って、人間関係のネットワークがまばらになったこと、テレビやその他のマスメディアが過度に発達したことなど、数えあげれば子どもたちから直接体験をうばう条件は、枚挙にいとまがない。

まず、大きく生徒たちの生活の中にある「体験」を6つの領域に分けて点検し、その過不足を見ることから始めたい。本レポートでは、とりあえず「体験」を大きく次のように分類してある。

①「生活の体験」

「おもてに水をまく」「靴をみがく」「魚の干物を焼く」のような、主として生活者として必要な身のまわりの行為を含む16項目。

②「自然の体験」

「犬や猫にさわる」「たき火をする」などの自然や生き物とのかかわりを示す14項目。

③「ショック体験」

「水でおぼれそうになる」「まいごになる」「飼っていたペットが死んで悲しかった」「窓ガラスを割った（叱られることを予期してビクビクした）」など、強い情緒をひき起こすような体験を意味する9項目。

④「攻撃の体験」

「とっくみあいのケンカをした」「人をたたいた」など、他人から攻撃や暴力を受けたりこちらからやり返したりなどの6項目。

⑤「生死の体験」

「死人の顔を見た」「生まれたての赤ん坊の顔を見た」「親しい人が死んだ」など、人の生や死に直面した経験を意味する8項目。

⑥「リーダーの体験」

「クラス委員をした」「人前で話をした」などのリーダーとしての体験を示す5項目。

以上の6領域にまたがる58項目について、それぞれ「1度もそうした経験がない」「1回だけある」「2・3回ある」「何回もある」「数えきれないほどある」の5段階尺度で評定を求めるという手続きがとられている。

なお、本調査の対象は、中学生(1～3年)2,399名であり、調査は巻末に掲げた調査票を用いて、昭和57年6月に学校通しの質問紙の方法で行われた。

2. 生活の体験をめぐって

まず生徒たちの日常生活から見ていくことにしよう。表2は「生活の体験」を、経験されている頻度の少ないものから順に並べたものである。

項目によって数字の開きがあるものの、全体としては、中学生という年齢を考えると体験の量が少なすぎることにはまず注目したい。例えば、「1人でごはんをたいたことが1度もない」者は、男子で48%、女子で21%もいる。同様に「靴をみがいたことが1度もない」者が

35%と24%、「魚の干物を焼いたことがない」者が37%と21%である。「肉屋へ1人でお使いに行ったことが、今までに2、3回かそれ以下」の者が33%と26%。「生タマゴを手で割ったことが2、3回かそれ以下」が22%と19%となっている。当節のことだから、これらを「数えきれないほどある」と期待するのは無理だとしても、もう少し毎日の生活の中でしていてもよいのではないか。

逆にきわめて数多く経験されているのは、

表の下部にある「ガスコンロの火をつける」「カンヅメを開ける」「クギを打つ」「インスタントラーメンを作る」の4項目で、7割以上から「数えきれないほどある」と答えられている。これらはいずれも、現代的な便利な生

活様式の中で必要とされる行動であり、体を使わず楽な作業ばかりである。

さてここでもうひとつ注目されるのは、体験量の性差である。表に印をつけておいたように、「クギを打つ」「ラーメンを作る」以外

(表2) 生活の体験

→生活者としては心もとない生徒たち

(%)

| 体 験 | | 尺 度 | | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|-----------------------------------|----|-----|------|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| 1人でごはんをたいたこと(米とぎから全部、電気やガス釜で) | 男子 | ⊙ | 48.0 | 12.2 | 18.1 | 13.0 | 8.7 | |
| | 女子 | | 21.1 | 9.6 | 18.4 | 24.4 | 26.5 | |
| 靴に靴ずみをぬって、みがいたこと | 男子 | ⊙ | 34.9 | 11.7 | 20.6 | 16.5 | 16.3 | |
| | 女子 | | 24.0 | 8.9 | 24.2 | 23.2 | 19.7 | |
| 魚の切り身や干物を焼いたこと | 男子 | ⊙ | 37.4 | 8.1 | 22.4 | 18.2 | 13.9 | |
| | 女子 | | 21.1 | 7.1 | 23.6 | 28.5 | 19.7 | |
| 食器(夕食の後など)を1人で全部洗ったこと | 男子 | ⊙ | 31.4 | 12.2 | 26.4 | 20.4 | 9.6 | |
| | 女子 | | 3.6 | 2.0 | 13.3 | 40.9 | 40.2 | |
| (洗たく機を使わず)手でハンカチや下着などを、洗ったこと | 男子 | ⊙ | 25.0 | 14.8 | 27.4 | 18.3 | 14.5 | |
| | 女子 | | 6.0 | 4.9 | 19.8 | 33.9 | 35.4 | |
| 肉を1人で買って来たこと | 男子 | ⊙ | 13.5 | 4.5 | 15.3 | 28.1 | 38.6 | |
| | 女子 | | 8.3 | 3.2 | 14.6 | 28.1 | 45.8 | |
| 洗たく物を干したこと | 男子 | ⊙ | 17.4 | 9.2 | 27.2 | 27.9 | 18.3 | |
| | 女子 | | 2.4 | 3.2 | 11.9 | 38.1 | 44.4 | |
| あなたの家を、ぞうきんで掃除したこと | 男子 | ⊙ | 11.1 | 8.7 | 25.4 | 31.5 | 23.3 | |
| | 女子 | | 3.4 | 2.6 | 18.4 | 40.3 | 35.3 | |
| 生タマゴを、手で割ったこと | 男子 | | 6.6 | 5.1 | 10.7 | 24.4 | 53.2 | |
| | 女子 | | 7.8 | 3.5 | 7.5 | 20.8 | 60.4 | |
| (家で)おもてに水をまいたこと | 男子 | | 9.0 | 4.2 | 22.4 | 36.1 | 28.3 | |
| | 女子 | | 4.7 | 2.6 | 15.7 | 42.5 | 34.5 | |
| 自分できゅうすに、お茶の葉とお湯を入れて(お茶を入れて)飲んだこと | 男子 | | 9.1 | 4.4 | 13.7 | 30.3 | 42.5 | |
| | 女子 | | 1.8 | 1.8 | 8.6 | 25.8 | 62.0 | |
| 自分でリンゴやナシの皮をむいたこと | 男子 | | 7.8 | 7.1 | 20.6 | 34.5 | 30.0 | |
| | 女子 | | 1.9 | 1.5 | 8.4 | 33.1 | 55.1 | |
| ガスコンロの火をつけたこと | 男子 | | 1.4 | 1.2 | 5.0 | 21.3 | 71.1 | |
| | 女子 | | 2.2 | 1.5 | 3.7 | 15.5 | 77.1 | |
| かん切りで、カンヅメを開けたこと | 男子 | | 1.3 | 0.7 | 3.0 | 20.6 | 74.4 | |
| | 女子 | | 1.1 | 0.8 | 2.7 | 21.8 | 73.6 | |
| カナヅチでクギを打ったこと | 男子 | | 0.8 | 0.6 | 2.5 | 21.2 | 74.9 | |
| | 女子 | | 1.5 | 2.9 | 21.9 | 44.4 | 29.3 | |
| インスタントラーメンを作ったこと | 男子 | | 0.7 | 1.1 | 2.9 | 21.7 | 73.6 | |
| | 女子 | | 1.3 | 1.5 | 5.2 | 28.3 | 63.7 | |

注) ⊙ 男子に体験が少ない
 ⊗ 女子に体験が多い
 √ 男子に体験が多い

は、ほとんどの項目で、圧倒的に女子の方が体験量が多くなっている。このことは、男子にいわゆる「生活者」としての基本的能力が形成されていないままに、成長していることを示すものであろう。というのはこれらの項目はいわゆる「性役割」というよりも、人間が1人で生活していくために基本的に必要な作

業であり、社会生活能力であると考えられるからである。このあたりは、家庭教育上の問題点、すなわち子どもが男子であろうと女子であろうと、将来必要になる生活能力を身につけさせるという視点が親たちに欠けていることを示すものであろう。

3. 自然の体験をめぐって

さて次は生徒たちの「自然の体験」を見ていこう。表3は、14項目の「自然の体験」を、体験量の少ない順に並べたものである。

この表を見て第一に気づくのは、先に見てきた「生活の体験」よりまた一段と体験量が減少していることである。表3の1番目と2番目は、やむをえないとしても、「川で泳いだことがない」者が男子29%と女子47%、「屋根の上に登ったことのない」者が、22%と41%、「魚をとったことのない」者が16%と46%である。少し下の方で、「傘がオチョコになったことが一度もない」者が13%と20%。「たき火をしたことのない」者が10%と19%となっている。これらの数字は、昔だったら考えられないものではなかろうか。

自然体験の喪失は、いったい何を意味するのだろうか。子どもは自然とのかかわりの中

でワイルドな体験をし、そのシビアな状況に對して、かすかすの問題解決を試みる。その中で子どもは大きな環境適応性を身につけ、生存への自信を深めていくのではないだろうか。いつも作られた快適な環境の中だけで生活している子どもは、外界に對してどうしても引込みがちとなり、冒険やチャレンジの精神を欠いた存在になっていくと思われる。

こうした自然体験の量が、特に女子に少なくなっているのも気になるところである。「植物を育てる」「草むしり」「犬や猫にさわる」以外のほとんどの項目は、男子の体験量が有意に多い。男性と女性のパーソナリティーの差や適応力の差は、こうした幼少期からの「体験」の差の積み重ねによって生み出される部分も大きいのではなかろうか。

(表3) 自然の体験

→自然と切り離された生活

(%)

| 体 験 | | 尺 度 | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|----------------------------------|----|-----|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| テレビがない生活を1か月以上したこと | 男子 | | 90.8 | 5.0 | 2.2 | 0.9 | 1.1 |
| | 女子 | | 94.3 | 3.5 | 1.2 | 0.3 | 0.7 |
| 電気がつかないところで2日以上暮らしたこと | 男子 | ^ | 74.9 | 8.4 | 8.3 | 4.3 | 4.1 |
| | 女子 | | 89.3 | 5.6 | 2.7 | 1.9 | 0.5 |
| 川で泳いだこと | 男子 | ^ | 29.0 | 10.4 | 22.4 | 19.7 | 18.5 |
| | 女子 | | 46.8 | 13.0 | 22.6 | 11.4 | 6.2 |
| 屋根に登って、カワラの上を歩いたこと | 男子 | ^ | 22.2 | 7.4 | 19.2 | 24.1 | 27.1 |
| | 女子 | | 41.3 | 9.7 | 19.3 | 17.7 | 12.1 |
| 魚を、網ですくって、とったこと (金魚はだめ) | 男子 | ^ | 16.1 | 7.0 | 17.9 | 27.7 | 31.3 |
| | 女子 | | 45.8 | 11.9 | 21.4 | 13.4 | 7.5 |
| 1日10キロ以上歩いたこと | 男子 | ^ | 16.6 | 12.0 | 31.9 | 24.5 | 15.0 |
| | 女子 | | 27.2 | 16.8 | 32.9 | 18.7 | 4.4 |
| カエルにさわったこと | 男子 | ^ | 5.5 | 3.6 | 12.6 | 29.0 | 49.3 |
| | 女子 | | 34.6 | 12.1 | 19.8 | 19.9 | 13.6 |
| (学校以外で)タネをまいて植物を育てたこと(植木ばちでなく土に) | 男子 | | 19.8 | 13.0 | 32.8 | 23.9 | 9.8 |
| | 女子 | | 14.0 | 10.1 | 34.6 | 28.6 | 12.7 |
| 傘が強い風で、オチヨコになったこと | 男子 | ^ | 12.9 | 9.8 | 32.0 | 29.3 | 16.0 |
| | 女子 | | 20.3 | 17.2 | 34.9 | 20.2 | 7.4 |
| たき火(だれかといっしょでも1人でも)をしたこと | 男子 | ^ | 9.5 | 7.2 | 23.5 | 35.7 | 24.1 |
| | 女子 | | 18.5 | 9.8 | 28.8 | 29.9 | 13.0 |
| セミやトンボをとったこと | 男子 | | 3.3 | 1.1 | 4.7 | 22.6 | 68.3 |
| | 女子 | | 7.1 | 4.2 | 17.4 | 32.4 | 38.9 |
| 雨で全身がビショぬれになったこと | 男子 | | 1.9 | 2.8 | 18.9 | 40.5 | 35.9 |
| | 女子 | | 3.9 | 7.7 | 34.4 | 37.6 | 16.4 |
| 草むしりをしたこと | 男子 | | 3.5 | 3.4 | 20.7 | 42.9 | 29.5 |
| | 女子 | | 1.6 | 2.1 | 13.9 | 45.2 | 37.2 |
| 犬や猫をだいたり、さわったりしたこと | 男子 | | 1.1 | 0.7 | 5.4 | 25.9 | 66.9 |
| | 女子 | | 0.9 | 0.8 | 5.0 | 24.7 | 68.6 |

注) ^ 女子に体験が少ない
 ⊙ 女子に体験が多い
 √ 男子に体験が多い

4. 情緒的な体験をめぐって

次に表4、表5は、主として情緒にかかわる体験である。ここで、「体験」という名では、ややなじみが薄いと思われる2つの下位領域について、少し説明を加えておこう。

第一に「ショック体験」は、子どもの情緒発達や、自我形成上に意味を持つ体験と考えるとよいだろう。子どもはその成長や発達の途上に、喜びや快など、プラスの感情体験ばかりでなく、痛み、不快、恐怖、不安、悲哀

などマイナスの感情体験をも適度に、しかもバランスよく体験することがその情緒性の形成上必要だとされる。不快があるので快が自覚され、悲しみを体験するので幸福の意味がわかる。もしプラスの感情経験しか経験されないと、感情の起伏が乏しく、無感動でノッペラボウな人格が形成されるとも言われている。

よく、涙と共にパンを食べたことがない者

には人生の味はわからない、と言われるが、
マイナスの感情体験は、人生に奥行きと深味

を与えてくれる調味料のようなものであろう
し、またそうした体験をへて、人びとは強く

(表4) ショック体験

→不安や恐怖とは無縁

(%)

| 体験 | | 尺度 | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|---|----|----|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| 海やプールや川で、おぼれそうにな ったこと | 男子 | | 58.3 | 22.0 | 15.0 | 2.9 | 1.8 |
| | 女子 | | 56.5 | 24.1 | 15.7 | 2.4 | 1.3 |
| 外で「まいご」になったこと | 男子 | ⊙ | 45.6 | 20.2 | 23.3 | 7.2 | 3.7 |
| | 女子 | | 39.5 | 24.0 | 26.6 | 7.4 | 2.5 |
| 家で飼っている犬や猫や小鳥が死んで 泣いたこと(泣くほど悲しかったこと) | 男子 | ⊙ | 55.4 | 20.3 | 13.7 | 5.9 | 4.7 |
| | 女子 | | 28.7 | 20.0 | 25.6 | 14.1 | 11.6 |
| 親友が転校したこと | 男子 | ∧ | 31.7 | 24.0 | 28.9 | 11.9 | 3.5 |
| | 女子 | | 36.4 | 28.6 | 23.0 | 9.2 | 2.8 |
| 犬においかけられたり、吠えられて こわかったこと | 男子 | ∧ | 13.8 | 15.4 | 36.5 | 22.4 | 11.9 |
| | 女子 | | 51.9 | 22.8 | 19.1 | 4.8 | 1.4 |
| 夜、1人で暗い道を5分以上歩いた こと | 男子 | ⊙ | 30.6 | 16.4 | 25.9 | 14.8 | 12.3 |
| | 女子 | | 22.0 | 19.4 | 29.5 | 19.0 | 10.1 |
| 魚の骨をのどへさしたこと (骨のみこんで) | 男子 | ⊙ | 24.0 | 14.7 | 33.4 | 19.2 | 8.7 |
| | 女子 | | 18.7 | 19.3 | 37.2 | 19.9 | 4.9 |
| お金を落としたこと | 男子 | ∧ | 13.9 | 17.5 | 39.0 | 20.7 | 8.9 |
| | 女子 | | 26.2 | 23.7 | 35.1 | 11.9 | 3.1 |
| 窓ガラスを割ってしまったこと | 男子 | ∧ | 13.8 | 15.4 | 36.5 | 22.4 | 11.9 |
| | 女子 | | 51.9 | 22.8 | 19.1 | 4.8 | 1.4 |

注) ⊙ 男子に体験が少ない
∧ 女子に体験が少ない

(表5) 生死の体験

→人生を知らないで過ごす

(%)

| 体験 | | 尺度 | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|-----------------------------|----|----|-----------|-------------|------------|-----------|--------------------|
| あなたが死にそうなほどの大病をし たこと | 男子 | | 87.6 | 9.6 | 1.9 | 0.3 | 0.6 |
| | 女子 | | 88.5 | 9.6 | 1.6 | 0.3 | 0.0 |
| 赤ちゃんのおむつをかえたり、寝か したこと | 男子 | ⊙ | 77.3 | 6.8 | 9.8 | 4.3 | 1.8 |
| | 女子 | | 49.6 | 9.1 | 19.9 | 13.6 | 7.8 |
| 生まれたばかりの赤ちゃんを見たこと | 男子 | ⊙ | 50.5 | 24.1 | 17.2 | 5.6 | 2.6 |
| | 女子 | | 42.9 | 24.1 | 20.7 | 8.3 | 4.0 |
| 死人だ人の顔を実際に見たこと | 男子 | | 44.3 | 33.1 | 17.0 | 3.4 | 2.2 |
| | 女子 | | 45.7 | 36.7 | 14.2 | 2.4 | 0.9 |
| 家族が病気で入院したこと | 男子 | | 36.4 | 1度ぐらい ある | 46.5 | 何回も ある | 17.1 |
| | 女子 | | 38.3 | | 45.7 | | 16.0 |
| あなたが、おじいさんやおばあさん と暮らしたこと | 男子 | | 34.3 | 前に あった | 43.3 | 今もそう | 22.4 |
| | 女子 | | 40.1 | | 35.8 | | 24.1 |
| 親しい親せきや家族が死んだこと | 男子 | | 33.5 | 26.0 | 31.3 | 7.2 | 2.0 |
| | 女子 | | 26.3 | 27.9 | 35.9 | 8.3 | 1.6 |
| 赤ちゃんを、おんぶしたこと | 男子 | ⊙ | 25.7 | 8.8 | 26.4 | 25.4 | 13.7 |
| | 女子 | | 16.0 | 7.1 | 24.1 | 33.6 | 19.2 |

注) ⊙ 男子に体験が少ない

もたくましくもなり、また他人の人生への思いやりや共感も生み出すのだろう。最近のヤングたちの中に指摘されるいくつかの性格上の問題点は、ひょっとすると、子ども時代が快適過ぎて、こうした「ショック体験」に出会うことが少ないまま、成人してしまったことによるのかもしれない。

同様に「生死の体験」は、文字どおり人間の生や死、または出生や病いや老いに、立ち会った体験を意味している。これらは生命の意味、人の一生、人生などについて考える機会を与え、広く人間への理解や愛を生み出す大切な体験ではないかと考えられる。いわば人格にひとつの奥行きと幅を与えてくれるのではないだろうか。

以上のような体験の側面は、中学生たちの場合、どうなっているのだろうか。まず表4「ショック体験」を見ていこう。第一に気づくのは表2、表3で見てきた体験領域より一層その体験量が少なくなっていることである。「水におぼれそうになったことが1度もない」者が男子58%と女子57%。昔の子どもはよく親に黙って海や川へ行ったものだという。そこでおぼれそうになりながら、泳ぎを覚えたというようなエピソードは、全くの昔語りになってしまったのだろう。

さらにまいごになって、恐ろしく不安だった気持ちも体験の全くない者が46%と40%である。子どもたちが家と学校と塾の往復

だけで、それ以外の行動半径を持たなくなってしまったと言われるが、幼い時に、子どもたちだけで遠出をすることがなくなったことを示す数字であろう。

同様のことが「犬に吠えられてこわい思いをしたことのない」者男子14%と女子52%、「夜道を5分以上歩いたことのない」者男子31%と女子22%、などの数字からも言えるだろう。また「魚の骨をのどにさしたことのない」者が男子24%と女子19%の数字は、子どもたちの食事から魚が姿を消したこと、または一匹付けの魚が食卓に上がらなくなったことを意味するものだろう。昔の子どもたちは、何度となくこうした思いをして、かたまりのごはんを飲み込まされたものなのだが。

次は表5「生死の体験」である。9割近い者は自分が死にそうなほどの大病をしたこともなく、家族の入院も3人に1人は全く知らない。家族や親せきの者の死は3割が経験したことがなく、死んだ人の顔を見たことのない者は4割強である。半分の者は生まれたばかりの赤ん坊を見たことがなく、3人に1人は老人と1度も同居したことがない。こうした人生との出会いはかつてに比べると、確かに機会が少なくなっていると言えるだろう。家族のサイズが小さくなったことや、平均寿命が伸び、医学的水準が向上したことにもよることで、それ自体はむしろ幸せなことなのだが。

5. 社会的な体験をめぐって

次は表6、表7に掲げた「攻撃の体験」と「リーダーの体験」である。両方とも人間関係の中での体験で、方向は違ってもやはり人格形成上重要な意味を持っている。

特に「攻撃の体験」は、一見ネガティブな価値を持つ行為のようであるが、「とっくみあいのケンカ」に象徴されるように、人と人との激しいぶつかりあいを示す体験である。密

接な人間関係のある所には必ず対立や衝突があるものである。われわれの人生は、対立や衝突なしに過ごしていくことはできないのだから、その対立や衝突をどう受けとめるか、どう処理していくかの技術が必要になってくる。子ども時代にたくさんケンカをした子どもは、成長してから、うまくケンカすることもできるし、うまくケンカをかわすこともで

(表6) 攻撃の体験

→やはりおとなしい女の子

(%)

| 体験 | | 尺度 | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|---------------------|----|----|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| 廊下に立たされたこと | 男子 | △ | 28.0 | 13.2 | 29.5 | 19.2 | 10.1 |
| | 女子 | | 51.5 | 18.7 | 21.2 | 6.3 | 2.3 |
| 友だちととっくみあいのケンカをしたこと | 男子 | △ | 14.0 | 11.2 | 32.4 | 30.6 | 11.8 |
| | 女子 | | 65.4 | 13.0 | 13.7 | 6.0 | 1.9 |
| お父さんにぶたれたこと | 男子 | △ | 13.0 | 9.6 | 24.4 | 28.1 | 24.9 |
| | 女子 | | 30.4 | 13.6 | 24.8 | 20.9 | 10.3 |
| お母さんにぶたれたこと | 男子 | △ | 16.2 | 6.4 | 23.8 | 31.3 | 22.3 |
| | 女子 | | 20.4 | 8.9 | 23.3 | 31.3 | 16.1 |
| 先生にぶたれたこと | 男子 | △ | 5.6 | 5.0 | 20.7 | 38.4 | 30.3 |
| | 女子 | | 23.4 | 18.8 | 29.9 | 20.3 | 7.6 |
| ケンカして、人をたたいたこと | 男子 | △ | 6.3 | 5.9 | 21.6 | 30.2 | 36.0 |
| | 女子 | | 19.1 | 8.9 | 20.6 | 27.6 | 23.8 |

注) △ 女子に体験が少ない

(表7) リーダーの体験

→一部の者たちの独占

(%)

| 体験 | | 尺度 | 1度も ない | 1回だけ ある | 2、3回 ある | 何回も ある | 数え きれない ほどある |
|-------------------------------------|----|----|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| 児童会や生徒会(学校全体の)で会長、副会長、議長、役員などになったこと | 男子 | △ | 75.3 | 12.1 | 7.2 | 3.6 | 1.8 |
| | 女子 | | 78.7 | 9.3 | 7.3 | 3.8 | 0.9 |
| 学級委員をしたこと | 男子 | △ | 58.4 | 15.1 | 15.2 | 8.0 | 3.3 |
| | 女子 | | 60.5 | 14.0 | 14.5 | 8.7 | 2.3 |
| 何百人もの人の前で、話をしたこと | 男子 | △ | 56.5 | 15.1 | 18.1 | 6.3 | 4.0 |
| | 女子 | | 59.0 | 16.2 | 16.0 | 5.8 | 3.0 |
| 文化祭や運動会の役員としてクラスでリーダーとなったこと | 男子 | △ | 52.7 | 14.9 | 19.6 | 8.9 | 3.9 |
| | 女子 | | 51.5 | 13.7 | 20.9 | 10.0 | 3.9 |
| 何百人もの人の前で歌ったり、楽器をひいたり劇をしたりしたこと | 男子 | ◎ | 42.0 | 12.5 | 25.9 | 13.9 | 5.7 |
| | 女子 | | 21.7 | 10.1 | 32.9 | 28.4 | 6.9 |

注) ◎ 男子に体験が少ない

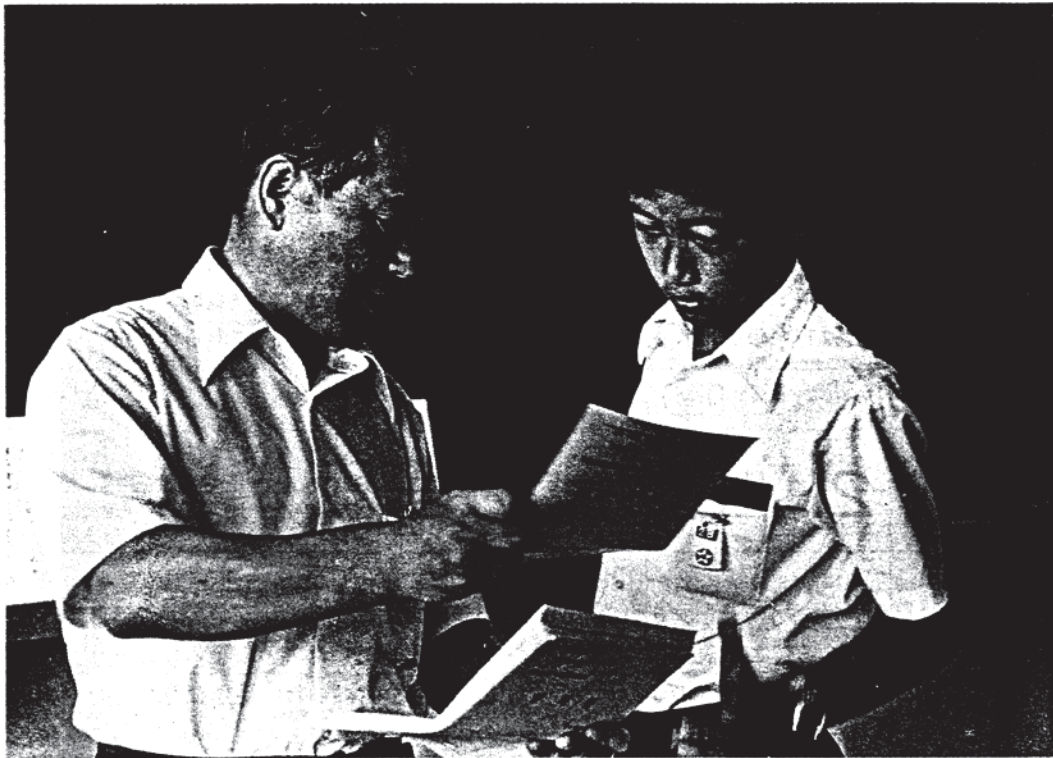
きるだろう。攻撃の仕方を知っているばかりか、これをうまく受けとめることも知っているだろう。

そうした意味で特に「攻撃の体験」を設定したわけだが、全体としては、女子に体験が少ないこと、また友だちどうしのケンカは思ったより多くはないが、先生や親たちから意外にぶたれていることが目をひく。

また表7の「リーダーの体験」は、リーダーの性質から当然でもあろうが、一部の者だけに体験されていて、大多数の生徒には無縁な

体験であることがわかる。「児童会など学校全体の委員をしたことが一度もない」者は約8割にのぼり、学級委員ですら約6割の者は経験がない。文化祭などの役員でさえ5割はやはり1度も経験していない。またリーダーではなく、「多数の人びとの前で話したり、演じたり」の体験もあまり多くの者はしていない。人の上に立つという経験は、現代でも限られた者たちが独占している傾向が見られるのである。

第II章 体験の地域差と学年差



1. 6つの地域

生活体験の下位領域をそれぞれ点検してきたところで、次にその地域差と学年差をみてみることにしよう。昔ほど都市と農村の生活様式に差がなくなり、いわゆる地域差が縮小したと言われる現代だが、「体験」の地域差はあるのだろうか。

まず、はじめに地域差を見るために選んだ6つの地域(学校)について簡単に説明を加えておこう。

サンプルは都市部と農村部に大まかに地域を分けて、それぞれ3校ずつ選んである。

〈都市部〉

A 中学校(東京都練馬区)

東京の中ではやや下町的な風土のある地域である。密集した商店街や住宅地で、最近では校内がややざわついた雰囲気につつまれ、先生たちは生徒指導に懸命にとり組んでおられるとのこと。

B 中学校(東京都杉並区)

典型的な山手の住宅地の中学校。東京の中ではまだ緑が多く、近くには大きな池もあり、比較的自然が残されている恵まれた地域である。

C 中学校(千葉県市川市)

千葉県の中でも市川市は、東京に近接するベッドタウンの性質を持っている。昔から落ちついた住宅地のイメージを持たれていた町であるが、最近はかなり奥まで開発が進み、新興住宅地も増えてきている。C 中学校は、駅からやや離れた古くからの住宅地にある。

〈農村部〉

D 中学校(静岡県富士宮市)

東海道線の富士宮駅下車、それより身延線に乗り換えて10キロ(20分)、富士宮駅に着く。いかにも富士山の登山口といった感じの小さな地方都市で、半分は古い市街地、半分は農村地帯を含んでいる。

E 中学校(千葉県茂原市)

茂原市は千葉から内房線で40分。房総半島の内陸部にある小都市だが、E 中学校は市はずれにあり、古くからの町のたたずまいを残した地域にある。

F 中学校(山形県酒田市)

秋田から羽越本線に乗り、特急で1時間半、山形から行くには、奥羽本線で特急1時間、新庄で陸羽西線に乗り換え、急行で1時間、酒田市に着く。日本海側にあり、大都市からは遠く離れた地にあり、それだけに古い静かなたたずまいを残している地域である。F 中学校は酒田市のはずれにある農村部の学校である。

2. 生活の体験と自然の体験

まず表8は「生活の体験」の量を、6つの地域で比較したものである。この表は表の下部の注)にあるように、5段階尺度のうち「数えきれないほどある」「魚を焼いたこと」のみ「何回もある」と「数えきれないほど」の合計)の%を示したもので、6地域のうち体験が多い数値を○印で、少ない数値を□印で示した。

表が示すように、○印がもっとも多いのは、酒田市と茂原市となっており、全体としてはやはり農村部の生徒たちが、比較的他人の世話にならずに身のまわりのことをしている様子がわかる。逆にこうした体験が乏しい地域は、□印の多い練馬区と富士宮市という結果になっている。これらの数字を見てみると、地域差が失われたという現代においても、やはり地域によってそれぞれ人の暮らしや家庭教育に差のあるらしいことが推測されよう。

次に表9は「自然の体験」である。表が示すように、豊かな自然体験を示す○印は、やはり農村部に多くなっているが、都市と言っても杉並区のように、緑や水のある地域では「魚をとる」「植物を育てる」などに○印がついている。また市川市で「カエルにさわったこと」

が多いのは、この地域が最近までけっこう田んぼを残していたことによるのだろう。こうした「自然の体験」は、さきに見てきた「生活の体験」より体験のバラツキが多いのも特色である。例えば、「生活の体験」の項で最大のバラツキは「靴みがき」で、もっとも体験が多いのが市川市の53%、体験が少ないのが富士宮市の25%と、その比は2対1(5割)であり、他も体験が少ない地域は体験がいちばん多い地域の6~7割程度である。ちなみに、機械的に体験の最大値と最小値の平均をとると55%と37%となる。

しかし「自然の体験」となると、例えば「川泳ぎ」はいちばん体験の多い地域の50%と体験の少ない地域の15%、「セミやトンボとり」は79%と33%、「草むしり」は51%と17%であり、大きな差がある。生活の体験にならって平均を算出してみると、体験の最大41%と最小18%で、最小値は最大値の4割である。すなわち人びとの生活様式は地域差が縮小したが、環境の差からもたらされる自然とのかかわりのパターンには、やはりかなりの差があるとみてよいのだろう。

(表8) 生活の体験×地域

→都市部に少ない

(%)

| 体験 | 都 市 | | | 農 村 | | | カテゴリー |
|-----------------------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 | |
| 1人でごはんをたいたこと(米ときから全部、電気やガス釜で) | 37.2 | 35.5 | 39.7 | 27.0 | 36.4 | 30.0 | * |
| 靴に靴ずみをぬってみかけたこと | 26.8 | 33.1 | 52.6 | 24.5 | 29.3 | 32.9 | * |
| 魚の切り身や干物を焼いたこと | 39.2 | 33.3 | 38.9 | 41.2 | 47.0 | 34.7 | ** |
| 食器(夕食の後など)を1人で全部洗ったこと | 24.0 | 22.8 | 26.0 | 18.7 | 24.7 | 25.7 | * |
| (洗たく機を使わず)手でハンカチや下着などを、洗ったこと | 26.8 | 27.2 | 24.0 | 18.7 | 24.7 | 26.9 | * |
| 肉を1人で買って来たこと | 47.3 | 36.3 | 44.0 | 26.3 | 46.7 | 41.9 | * |
| 洗たく物を干したこと | 32.9 | 32.2 | 29.3 | 30.1 | 31.7 | 33.2 | * |
| あなたの家を、ぞうきんで掃除したこと | 26.7 | 27.7 | 27.8 | 25.6 | 33.0 | 28.9 | * |
| 生タマゴを、手で割ったこと | 48.5 | 52.1 | 52.7 | 54.7 | 62.8 | 67.9 | * |
| (家で)おもてに水をまいたこと | 33.9 | 29.2 | 29.1 | 24.8 | 38.6 | 25.9 | * |
| 自分できゅうすに、お茶の葉とお湯を入れて(お茶を入れて)飲んだこと | 44.8 | 46.7 | 50.4 | 52.6 | 54.3 | 62.8 | * |
| 自分でリンゴやナシの皮をむいたこと | 35.7 | 37.8 | 39.5 | 37.3 | 45.1 | 58.5 | * |
| ガスコンロの火をつけたこと | 66.3 | 70.4 | 73.6 | 75.2 | 75.8 | 80.2 | * |
| かん切りで、カンヅメを開けたこと | 70.7 | 67.2 | 72.6 | 75.5 | 76.9 | 60.6 | * |
| カナヅチでクギを打ったこと | 48.2 | 54.2 | 50.1 | 54.2 | 53.7 | 58.3 | * |
| インスタントラーメンを作ったこと | 63.4 | 60.7 | 65.4 | 69.3 | 74.5 | 77.5 | * |

注) * 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある
%

** 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある
%

○ …… 6地域のうち体験が多い
□ …… 6地域のうち体験が少ない

(表9) 自然の体験×地域

→都市部に少ない

(%)

| 体験 | 地 域 | | | 農 村 | | | カテゴリー |
|----------------------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 | |
| テレビがない生活を1か月以上じたこと | 4.2 | 11.0 | 8.8 | 3.8 | 7.4 | 4.0 | **** |
| 電気がつかないところで2日以上暮らしたこと | 10.2 | 10.2 | 11.3 | 17.5 | 11.3 | 5.6 | *** |
| 川で泳いだこと | 49.9 | 35.1 | 25.7 | 42.2 | 24.5 | 14.7 | ** |
| 屋根に登って、カワラの上を歩いたこと | 10.3 | 15.3 | 14.0 | 19.9 | 29.1 | 25.8 | * |
| 魚を、網ですくって、とったこと (金魚はだめ) | 13.7 | 24.5 | 16.5 | 15.6 | 23.5 | 22.7 | * |
| 1日10キロ以上歩いたこと | 29.4 | 29.0 | 27.4 | 35.7 | 38.3 | 30.1 | ** |
| カエルに、さわったこと | 21.0 | 25.7 | 37.6 | 31.7 | 31.0 | 30.0 | * |
| (学校以外で)タネをまいて植物を育てたこと(植木ばちでなく土に) | 33.3 | 46.5 | 33.6 | 32.1 | 41.1 | 36.7 | ** |
| 傘が強い風で、オチヨコになったこと | 33.6 | 24.2 | 37.3 | 38.5 | 39.6 | 44.6 | ** |
| たき火(だれかといっしょでも1人でも)をしたこと | 14.4 | 21.9 | 14.8 | 18.7 | 24.3 | 15.9 | * |
| セミやトンボをとったこと | 53.0 | 48.8 | 53.2 | 32.9 | 54.4 | 78.6 | * |
| 雨で全身がビショぬれになったこと | 22.8 | 24.8 | 24.7 | 26.8 | 29.7 | 27.7 | * |
| 草むしりをしたこと | 17.3 | 25.8 | 25.2 | 37.4 | 51.4 | 33.2 | * |
| 犬や猫をだいたり、さわったりしたこと | 63.1 | 65.7 | 65.8 | 73.9 | 74.1 | 64.2 | * |

注) * 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある | ** | 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある | %

*** | 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある | %

**** | 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある | %

○ …… 6地域のうち体験が多い
□ …… 6地域のうち体験が少ない

3. 情緒的な体験と社会的な体験

その他の体験領域では表10に示した「生死の体験」にもっとも地域差が大きくなっている。特に富士宮市、酒田市などの農村部に○印が多い（この場合は尺度のうち「1度もない」をとっているので、逆に数字の小さい項目に○印をつけてある。意味的には、表8、9と同じで○印のついている地域に体験が多いことを示している）。おそらく家族のサイズも大きく、親せきや地域の人びととの人間関係も細やかな地域的特色が、こうした人間の生死にかかわる機会を多くしているであろう。

その他の多少の地域差は「リーダーの体験」（表13参照）と「ショック体験」（表11参照）に見られ、「リーダーの体験」は都市部に、また「ショック体験」は農村部に多少多くなっている。また「攻撃の体験」（表12参照）のうち、おそらく教育ママの多いと想像される杉並区では、母親からぶたれている率がいちばん高く、また多少学校が騒然としはじめている練馬区では先生から廊下に立たされている率が高いなど、これらの数字はそれぞれの地域での人びとの暮らしを物語っているであろう。

(表10) 生死の体験×地域

(%)

→ 都市部に少ない

| 体験 | 都 市 | | | 農 村 | | |
|-------------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 |
| あなたが死にそうなほどの大病をしたこと | 86.8 | 88.9 | 88.4 | 87.6 | 87.8 | 86.5 |
| 赤ちゃんのおむつをかえたり、寝かしたりしたこと | 59.9 | 66.7 | 62.9 | 69.5 | 61.2 | 68.3 |
| 生まれたばかりの赤ちゃんを見たこと | 47.0 | 50.0 | 41.7 | 44.2 | 49.9 | 55.6 |
| 死んだ人の顔を実際に見たこと | 51.8 | 46.4 | 49.1 | 37.9 | 40.3 | 41.5 |
| 家族が病気で入院したこと | 45.5 | 42.5 | 41.3 | 25.4 | 34.4 | 27.0 |
| あなたが、おじいさんやおばあさんと暮らしたこと | 42.4 | 42.3 | 43.9 | 27.1 | 32.4 | 24.5 |
| 親しい親せきや家族が死んだこと | 34.7 | 36.3 | 32.4 | 19.9 | 27.8 | 22.9 |
| 赤ちゃんを、おんぶしたこと | 18.5 | 24.0 | 20.0 | 28.3 | 17.9 | 23.7 |

注) 1度もない | 1回だけある | 2、3回ある | 何回もある | 数えきれないほどある

%

これまでの項目に比べ、体験の頻度が少ないので、「1度もない」の%を掲げた。したがって数字が小さいほど体験が多いことを示す。

○ … 6地域のうち体験が多い
□ … 6地域のうち体験が少ない

(表11) ショック体験×地域

(%)

| 体験 | 都 市 | | | 農 村 | | |
|-------------------------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 地 域 | | | 地 域 | | |
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 |
| 海やプールや川で、おぼれそうになったこと | 53.3 | 61.0 | 59.3 | 63.2 | 54.0 | 53.2 |
| 外で「まいご」になったこと | 32.3 | 34.3 | 42.6 | 58.5 | 44.4 | 42.8 |
| 家で飼っている犬や猫や小鳥が死んで泣いたこと(泣くほど悲しかったこと) | 42.0 | 41.6 | 42.2 | 39.2 | 43.5 | 44.9 |
| 親友が転校したこと | 40.6 | 21.6 | 32.3 | 32.5 | 39.5 | 38.6 |
| 犬においかけられたり、吠えられてこわかったこと | 31.1 | 31.2 | 25.8 | 20.3 | 24.7 | 26.9 |
| 夜、1人で暗い道を5分以上歩いたこと | 9.6 | 7.5 | 8.4 | 13.2 | 8.4 | 5.1 |
| 魚の骨をのどへさしたこと(骨をのみこんで) | 20.4 | 22.6 | 24.1 | 21.2 | 20.7 | 13.0 |
| お金を落としたこと | 23.8 | 24.8 | 19.2 | 21.7 | 17.5 | 15.9 |
| 窓ガラスを割ってしまったこと | 33.9 | 42.4 | 37.5 | 25.6 | 25.0 | 22.3 |

注) 1度もない 1回だけある 2、3回ある 何回もある 数えきれないほどある

これまでの項目に比べ、体験の頻度が少ないので、「1度もない」の%を掲げた。したがって数字が少ないほど体験が多いことを示す。

○ …… 6地域のうち体験が多い
□ …… 6地域のうち体験が少ない

(表12) 攻撃の体験×地域

(%)

| 体験 | 都 市 | | | 農 村 | | | カテゴリー |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | 地 域 | | | 地 域 | | | |
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 | |
| 廊下に立たされたこと | 32.4 | 14.9 | 18.4 | 26.1 | 15.0 | 19.3 | ** |
| 友だちととっくみあいのケンカをしたこと | 27.6 | 30.1 | 22.7 | 24.6 | 28.4 | 23.4 | ** |
| お父さんにぶたれたこと | 39.4 | 44.3 | 44.8 | 29.3 | 43.6 | 41.5 | ** |
| お母さんにぶたれたこと | 54.2 | 59.6 | 52.3 | 38.8 | 49.2 | 42.1 | ** |
| 先生にぶたれたこと | 42.3 | 29.6 | 51.5 | 65.4 | 52.2 | 47.2 | ** |
| ケンカじて人をたたいたこと | 32.9 | 29.0 | 26.7 | 29.2 | 34.2 | 32.3 | * |

注) * 1度もない 1回だけある 2、3回ある 何回もある 数えきれないほどある

** 1度もない 1回だけある 2、3回ある 何回もある 数えきれないほどある

○ …… 6地域のうち体験が多い
□ …… 6地域のうち体験が少ない

(表13) リーダーの体験×地域

→都市部に多い

(%)

| 体験 | 都 市 | | | 農 村 | | |
|-------------------------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 練馬区 | 杉並区 | 市川市 | 富士宮市 | 茂原市 | 酒田市 |
| 児童会や生徒会(学校全体の)で会長、副会長、議長、役員などになったこと | 66.7 | 69.3 | 84.5 | 64.1 | 84.2 | 60.2 |
| 学級委員をしたこと | 48.8 | 60.5 | 61.0 | 48.1 | 61.6 | 62.1 |
| 何百人もの人の前で、話をしたこと | 58.3 | 45.2 | 61.2 | 54.5 | 62.0 | 53.4 |
| 文化祭や運動会の役員としてクラスでリーダーとなったこと | 53.0 | 52.7 | 47.7 | 58.1 | 50.2 | 64.9 |
| 何百人もの人の前で歌ったり、楽器をひいたり劇をしたりしたこと | 28.7 | 23.5 | 35.5 | 37.4 | 29.2 | 37.5 |

注) 1度もない 1回だけある 2、3回ある 何回もある 数えきれないほどある

これまでの項目に比べ、体験の頻度が少ないので、「1度もない」の%を掲げた。したがって数字が少ないほど体験が多いことを示す。

○ … 6地域のうち体験が多い
□ … 6地域のうち体験が少ない

4. 体験の学年差

こうした体験は、学年と共にどう積み重ねられていくものだろうか。これらは、領域にもよるが、子どもたちが生まれてから刻々と経験されていくものであり、中学生になってからでは、それほど飛躍的な増加はないものと考えられるが、一応のチェックをしてみよう。

表14は、各領域ごとに、その体験量を4分し(表15参照)、その学年・性別ごとに平均値をとったものである。

まず学年差については、有意な増加を示している領域にアンダーラインをしておいた。「生活の体験」についてみていくと、体験のない者の割合が、中1で33%、中2で24%、中3で16%と大きく減っていく。当然のことかもしれないが、生活者としての体験が、1日ごとにつみ重ねられていくことを示している。同じ傾向は、「ショック体験」や「生死の体験」のように、生活と切り離せない側面にも見いだされる。

それに対して中学校段階では、あまり変化を示さない領域もある。「自然の体験」「攻撃の体験」「リーダーの体験」がそれである。自然とのかかわりはもっと幼年年齢のうちに終わってしまうので、この年齢段階では変化が見られないのだろう。つまり自然とのかかわりは、子どものうちにこそより十分に配慮してやるべきなのであろう。また「攻撃の体験」もここにピックアップした項目が、体罰や身体的攻撃のようなややプリミティブな攻撃の表現から構成されているため、やはりより幼年年齢での体験の増加がなければ、中学生では変化がないのであろう。

最後に「リーダーの体験」は、すでに指摘したことだが、その「席」を占めることのできる者たちは、能力から言って一定の層に偏ってしまうのだろう。やはり学年による変化がない。

ここでついでに性差を見ておくことにしよう。

(表14) 体験領域ごとの加算×学年、性別

→学年が上がっても増加しない領域も

(%)

| 体験領域 | | 学 年 | | | 性 別 | |
|---------|-------|------|------|------|------|------|
| | | 中1 | 中2 | 中3 | 男子 | 女子 |
| 生活の体験 | ない | 33.2 | 23.9 | 16.0 | 35.5 | 13.0 |
| | あまりない | 27.1 | 25.2 | 24.9 | 28.6 | 22.2 |
| | 少しある | 21.0 | 24.2 | 29.2 | 21.6 | 28.3 |
| | ある | 18.7 | 26.7 | 29.9 | 14.3 | 36.5 |
| 自然の体験 | ない | 24.1 | 25.9 | 21.9 | 12.3 | 36.5 |
| | あまりない | 27.5 | 24.8 | 24.2 | 19.5 | 31.5 |
| | 少しある | 24.6 | 24.5 | 25.1 | 29.0 | 20.2 |
| | ある | 23.8 | 24.8 | 28.8 | 39.2 | 11.8 |
| ショック体験 | ない | 32.1 | 28.3 | 24.0 | 22.6 | 34.1 |
| | あまりない | 29.9 | 31.9 | 31.4 | 29.7 | 32.2 |
| | 少しある | 16.3 | 20.7 | 21.5 | 22.1 | 16.7 |
| | ある | 21.7 | 19.1 | 23.1 | 25.6 | 17.0 |
| 攻撃の体験 | ない | 29.1 | 23.3 | 29.7 | 11.9 | 43.2 |
| | あまりない | 27.8 | 29.1 | 28.9 | 22.9 | 34.8 |
| | 少しある | 17.4 | 19.0 | 20.8 | 24.0 | 13.6 |
| | ある | 25.7 | 28.6 | 20.6 | 41.2 | 8.4 |
| 生死の体験 | ない | 24.8 | 21.3 | 18.7 | 27.0 | 16.6 |
| | あまりない | 30.6 | 33.0 | 28.8 | 32.1 | 29.2 |
| | 少しある | 23.9 | 22.8 | 26.6 | 23.6 | 24.9 |
| | ある | 20.7 | 22.9 | 25.9 | 17.3 | 29.3 |
| リーダーの体験 | ない | 20.0 | 25.0 | 21.4 | 26.9 | 17.0 |
| | あまりない | 22.0 | 26.3 | 24.9 | 22.0 | 26.9 |
| | 少しある | 28.4 | 26.1 | 24.3 | 25.0 | 27.8 |
| | ある | 29.6 | 22.6 | 29.4 | 26.1 | 28.3 |
| 体験トータル | ない | 29.8 | 24.2 | 19.6 | 22.2 | 27.4 |
| | あまりない | 25.5 | 25.3 | 23.3 | 23.6 | 25.7 |
| | 少しある | 23.0 | 26.3 | 28.6 | 25.7 | 25.8 |
| | ある | 21.7 | 24.2 | 28.5 | 28.5 | 21.1 |

注) ~~~~~ 学年差あり

○ 性差あり

(表15) 体験領域とその内容

| 体験領域 | 項目数 | *得点レンジ | 体験がない | 体験があまりない | 体験が少しある | 体験がある |
|---------|-----|----------------|--------|----------|---------|---------|
| 生活の体験 | 16 | 16 ┆ 80 | 16～53 | 54～61 | 62～68 | 69～80 |
| | | | 24.7% | 25.7% | 24.7% | 24.9% |
| 自然の体験 | 14 | 14 ┆ 70 | 14～36 | 37～42 | 43～48 | 49～70 |
| | | | 24.0% | 25.6% | 24.7% | 25.7% |
| ショック体験 | 9 | 9 ┆ 45 | 9～19 | 20～23 | 24～26 | 27～45 |
| | | | 28.1% | 31.2% | 19.4% | 21.3% |
| 攻撃の体験 | 6 | 6 ┆ 30 | 6～14 | 15～18 | 19～21 | 22～30 |
| | | | 27.2% | 28.6% | 19.0% | 25.2% |
| 生死の体験 | 8 | 8 ┆ 40 | 8～12 | 13～15 | 16～18 | 19～40 |
| | | | 21.8% | 20.8% | 24.3% | 33.1% |
| リーダーの体験 | 5 | 5 ┆ 25 | 5.6 | 7.8 | 9～11 | 12～25 |
| | | | 22.2% | 24.4% | 26.5% | 26.9% |
| 体験トータル | 58 | 58 ┆ 290 | 58～152 | 153～168 | 169～185 | 186～290 |
| | | | 24.7% | 24.7% | 25.8% | 24.8% |

注) *得点レンジ…1度もない…1 1回ある…2 2、3回…3 }と得点化し項目数を
何回もある…4 数えきれないほどある…5 } かけたもの

う。表の右側の性別の欄に示したように、女子に多い体験は、「生活の体験」「生死の体験」、男子に多いのは「自然の体験」「ショック体験」「攻撃の体験」であることがわかる。女子は生活そのものや人間関係をより体験しており、

男子は自然や荒々しい体験と多く出会っている。そうした体験の差が、男子と女子との行動の仕方に反映するであろうことは、想像に難くないところである。

第III章 生活体験と自己像



1. 体験と自己評価とのかかわり

II章では、生活体験を学年や性別などを軸として考察を加えてきた。しかし、そうした基本的な属性を越えて、生徒たちの体験がトータルとして乏しいのが目につく。そこで、これからは体験の多い、あるいは少ない生徒がどんなタイプなのか。そして、そうした体験の量が、生徒たちの自己形成にどのようなかかわりを持つのかを考えてみたい。

まず、表16に体験と自己評価とのクロス集計結果の一例を示した。この表では、縦軸にすでに触れた6つの体験の領域の中から「リーダーの体験」「自然の体験」「体験トータル」(体験58項目を加算したもの)をとり、横軸に

「学業成績」「一流大学への進学の見通し」「将来、知識や技術を必要とする仕事につけるか」をとってクロス集計をとる形をとった。

表中の○印から明らかなように、すべての項目で、

体験に乏しい＝○勉強が苦手で

- 大学進学の見通しが暗く
- 知識や技術の必要な仕事につきにくいと思っている

体験が豊か＝○勉強が得意で

- 大学進学の見通しが明るく
- 知識や技術を必要とする仕事につけると思っている

などのように、体験の乏しい生徒の自己像は暗く、それに対し、体験の豊かな生徒の自己像は明るいという結果が得られている。

もちろん、すでに紹介した6領域58の体験項目から明らかなように、「リーダーの体験」はともあれ、「自然の体験」は「川で泳ぐ」「カエルにさわる」「セミやトンボをとる」などを内容としているので、そうした体験を重ねることが、学業成績と直接つながるとは考えられない。

そこで、体験と自己評価との関連がどうして生じたのかに触れる必要があるが、その前に、体験と自己評価との関連をどの程度一般化できるかを考えるために、表17を作成してみた。

表17では、縦軸に体験の6領域と「体験トータル」をとり、横軸に「テレビの視聴時間」から「みんなに尊敬される仕事につける」までの10アイテムの自己評価をとった。もちろん、自己評価と言っても、テレビの視聴時間や勉強時間などの事実を尋ねたものから、意志の強さややる気など現在の自己評価、そして進学や職業的な達成のような将来の見通しまでをまとめる形で網羅してある。

やや読みとりにくいと思われるので、表中の数値を左上の「リーダーの体験」と「勉強の

成績」の欄に例をとって説明すると、リーダー体験のない生徒の中で、勉強がとても・かなり得意な者は8%だが、リーダー体験のある生徒の場合、21%が勉強が得意と答えていることになる。したがって、統計的な確率の問題としては「体験の多い者ほど、勉強が得意」と思っている者が多いということは否定し難い。

それぞれの欄の下にある係数は、クラマーのV係数(Crammer's V)と呼ばれるもので、相関の有無を示している。V係数の信頼度は、自由度により異なってくるが、自由度15のこの表の場合、係数値が0.12を上回ると、X²検定に換算して1%レベル、0.1を上回るとほぼ5%レベルで、さらに0.07以上だと10%レベルで有意の傾向が得られる。

こうした方法をとることにより、それぞれの欄に掲げていない——「リーダーの体験」と「勉強の成績」に例をとれば、勉強の得意な子どもの数値は表中に示してあるが、苦手な子どもの割合は割愛してある——数値をも含めて、体験と自己評価との関連をひとつの尺度を使って示すことが可能になる。

具体的には、V係数が0.1以上に○印、0.07から0.1の場合に○印に付した。したがって、○印の付いている項目はX²検定に換算して、

(表16) 体験×自己評価

| 自己評価 体験 | | 学業成績 | | | 一流大学への進学 | | | 知識・技術の必要な仕事 | | |
|-----------------|-------|------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------|-----------|-------------------|-------------|------------------|
| | | とても かなり 得意 | やや得意 ふつう やや苦手 | かなり・ とても 苦手 | 絶対・ たぶん 入れる | たぶん 入れない | とても 無理 | 絶対・ たぶん なれる | 半 分 半 | たぶん・ 絶対 無理 |
| リーダー の 体験 | ない | 8.4 | 57.6 | 34.0 | 14.8 | 39.7 | 45.5 | 10.8 | 36.2 | 53.0 |
| | あまりない | 11.2 | 64.5 | 24.3 | 19.4 | 36.5 | 44.1 | 10.5 | 46.2 | 43.3 |
| | 少しある | 12.3 | 68.2 | 19.5 | 29.0 | 42.1 | 28.9 | 15.4 | 45.9 | 38.7 |
| | ある | 21.1 | 62.8 | 16.1 | 35.0 | 39.8 | 25.2 | 26.0 | 46.9 | 27.1 |
| 自然 の 体験 | ない | 11.3 | 61.3 | 27.4 | 15.4 | 42.1 | 42.5 | 11.0 | 38.6 | 50.4 |
| | あまりない | 12.0 | 64.9 | 23.1 | 22.1 | 42.9 | 35.0 | 12.0 | 45.6 | 42.4 |
| | 少しある | 13.8 | 65.8 | 20.4 | 27.2 | 38.7 | 34.1 | 15.0 | 48.7 | 36.3 |
| | ある | 16.8 | 61.0 | 21.2 | 35.4 | 34.8 | 29.8 | 24.9 | 44.5 | 30.6 |
| 体験 ト ータル | ない | 13.9 | 58.2 | 27.9 | 17.3 | 41.0 | 41.7 | 11.0 | 41.8 | 47.2 |
| | あまりない | 11.4 | 67.9 | 20.7 | 24.3 | 42.7 | 33.0 | 12.8 | 45.2 | 42.0 |
| | 少しある | 12.4 | 67.5 | 20.1 | 24.5 | 39.7 | 35.8 | 15.5 | 44.6 | 39.9 |
| | ある | 16.6 | 60.2 | 23.2 | 34.6 | 35.0 | 30.4 | 24.8 | 45.2 | 30.0 |
| サンプル平均 | | 13.6 | 63.5 | 22.9 | 25.1 | 39.6 | 35.3 | 16.1 | 44.1 | 39.8 |

注) 注目される数値に○をつけた

(表17) 体験×自己評価

(V係数以外は%)

| 自己評価 体験の カテゴリ | テレビの 視聴 | 勉強時間 | 勉強の 成績 | 意志の 強い方 | やる気が ある方 | 有名高校 進学 | 一流大学 進学 | みんなの 役に立つ 仕事 | 知識や技 術の必要 な仕事 | みんなか ら尊敬さ れる仕事 | |
|---------------------|------------|------------|------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------|--------------------|---------------------|----------------------|-------|
| | 1時間半 以内 | 2時間半 以上 | とても かなり 得意 | とても かなり そう思う | とても かなり そう思う | 絶対・ たぶん 入れる | 絶対・ たぶん 入れる | 絶対・ たぶん なれる | 絶対・ たぶん なれる | 絶対・ たぶん なれる | |
| リーダーの 体験 | ない | *1 9.9 | 12.6 | 8.4 | 19.9 | 18.0 | 19.0 | 14.8 | 21.3 | 10.8 | 12.3 |
| | あまりない | 13.4 | 11.1 | 11.2 | 16.6 | 18.3 | 22.3 | 19.4 | 23.6 | 10.5 | 10.6 |
| | 少しある | 19.3 | 16.0 | 12.3 | 22.6 | 24.9 | 28.7 | 29.0 | 32.3 | 15.4 | 15.1 |
| | ある | 26.1 | 15.8 | 21.1 | 33.2 | 39.5 | 40.8 | 35.0 | 47.3 | 26.0 | 23.3 |
| | V係数 | 0.122 | 0.099 | 0.138 | 0.120 | 0.147 | 0.123 | 0.132 | 0.150 | 0.138 | 0.127 |
| 自然の 体験 | ない | 15.6 | 14.8 | 11.3 | 20.0 | 19.2 | 19.4 | 15.4 | 24.9 | 11.0 | 13.4 |
| | あまりない | 19.0 | 15.3 | 12.0 | 20.7 | 23.2 | 24.6 | 22.1 | 29.5 | 12.0 | 13.6 |
| | 少しある | 17.1 | 12.0 | 13.8 | 23.5 | 27.2 | 31.0 | 27.2 | 33.4 | 16.0 | 14.3 |
| | ある | 18.7 | 14.0 | 16.8 | 29.4 | 32.7 | 37.5 | 35.4 | 39.1 | 24.9 | 20.9 |
| | V係数 | 0.060 | 0.046 | 0.074 | 0.073 | 0.093 | 0.100 | 0.113 | 0.111 | 0.116 | 0.089 |
| 生活の 体験 | ない | 13.3 | 8.6 | 13.1 | 22.5 | 20.2 | 26.4 | 23.9 | 25.8 | 12.0 | 13.1 |
| | あまりない | 16.8 | 14.4 | 15.3 | 20.5 | 25.1 | 29.6 | 25.7 | 28.7 | 14.5 | 15.5 |
| | 少しある | 18.4 | 14.7 | 11.5 | 21.9 | 27.4 | 29.9 | 24.3 | 33.3 | 17.9 | 15.1 |
| | ある | 22.0 | 18.0 | 14.3 | 29.3 | 29.9 | 27.1 | 26.8 | 39.5 | 19.9 | 18.9 |
| | V係数 | 0.068 | 0.096 | 0.053 | 0.069 | 0.066 | 0.032 | 0.040 | 0.088 | 0.069 | 0.069 |
| 攻撃の 体験 | ない | 19.6 | 15.8 | 14.2 | 21.1 | 23.6 | 25.7 | 21.9 | 31.8 | 14.1 | 13.6 |
| | あまりない | 19.1 | 15.0 | 12.4 | 21.2 | 26.4 | 27.7 | 23.2 | 31.5 | 14.1 | 13.1 |
| | 少しある | 14.6 | 10.9 | 13.0 | 24.7 | 26.2 | 28.9 | 21.7 | 31.1 | 15.6 | 16.0 |
| | ある | 16.2 | 13.4 | 14.7 | 27.8 | 26.9 | 31.3 | 33.7 | 33.7 | 21.0 | 19.4 |
| | V係数 | 0.090 | 0.078 | 0.064 | 0.072 | 0.061 | 0.049 | 0.084 | 0.072 | 0.057 | 0.068 |
| シヨック 体験 | ない | 17.7 | 13.8 | 13.2 | 19.8 | 23.1 | 26.7 | 21.4 | 28.0 | 15.8 | 14.4 |
| | あまりない | 16.4 | 15.1 | 13.0 | 24.6 | 24.3 | 26.8 | 23.7 | 29.8 | 14.8 | 14.4 |
| | 少しある | 17.7 | 13.4 | 15.1 | 26.1 | 27.9 | 28.1 | 26.4 | 33.6 | 16.9 | 15.8 |
| | ある | 19.4 | 13.2 | 13.4 | 24.3 | 28.5 | 28.8 | 31.4 | 38.2 | 17.5 | 18.7 |
| | V係数 | 0.064 | 0.051 | 0.044 | 0.064 | 0.058 | 0.048 | 0.072 | 0.073 | 0.042 | 0.048 |
| 生死の 体験 | ない | 18.4 | 11.6 | 12.3 | 21.5 | 25.0 | 27.2 | 24.5 | 29.8 | 16.0 | 15.8 |
| | あまりない | 15.1 | 13.2 | 15.0 | 22.0 | 23.5 | 26.9 | 20.1 | 26.7 | 12.5 | 13.1 |
| | 少しある | 18.7 | 14.3 | 12.2 | 20.9 | 22.6 | 28.9 | 25.9 | 31.6 | 18.1 | 16.0 |
| | ある | 18.9 | 17.3 | 14.0 | 30.6 | 32.6 | 30.5 | 32.1 | 41.1 | 19.1 | 18.6 |
| | V係数 | 0.050 | 0.068 | 0.052 | 0.064 | 0.075 | 0.030 | 0.062 | 0.091 | 0.062 | 0.063 |
| 体験トータル | ない | 15.4 | 11.7 | 13.9 | 20.2 | 19.5 | 21.9 | 17.3 | 23.8 | 11.0 | 13.3 |
| | あまりない | 16.0 | 14.3 | 11.4 | 19.9 | 24.0 | 26.6 | 24.3 | 26.6 | 12.8 | 11.9 |
| | 少しある | 17.3 | 13.8 | 12.4 | 21.6 | 23.9 | 29.5 | 24.5 | 32.8 | 15.5 | 15.7 |
| | ある | 22.1 | 16.2 | 16.6 | 32.5 | 35.4 | 35.1 | 34.6 | 43.1 | 24.8 | 21.7 |
| | V係数 | 0.064 | 0.053 | 0.081 | 0.092 | 0.104 | 0.076 | 0.101 | 0.077 | 0.094 | 0.081 |
| サンプル平均 | 17.6 | 14.0 | 13.6 | 23.5 | 25.7 | 28.2 | 25.1 | 31.8 | 16.1 | 15.6 | |

注) *1 リーダー体験の「ない」生徒の中で、テレビ視聴が1時間半以内のものは9.9%しかいないことを意味する。

*2 $V = \text{Cramer's } V = \left(\frac{\phi}{\min\{(r-1)(c-1)\}} \right)^{\frac{1}{2}} \quad |V| > 0 \begin{cases} V \text{の値が大きいほど相関が大きい} \\ V \text{の値が小さいほど相関が小さい} \end{cases}$

少なくとも5%レベルで有意差のある項目、○印は10%レベル、無印は有意差の認められない項目となる。

しかし、この表では繁雑にすぎると思われるので、V係数に着目して表17を要約したのが表18である。ここでは作表の関係から○印を△印に置き換えることにした。また、V係数は相関の度合いを示すだけに、それが正相関(体験が増すにつれて自己評価が高まる)なのか、それとも逆相関(体験が増すのに反比例して自己評価が暗くなる)なのかが明らかでない。

そこで、クロス集計の原票にあたりながら、逆相関の認められた項目に▲印をつけることにした。表18から明らかなように、体験の中

でも特に「リーダーの体験」と「自然の体験」を多く持った者が、学業成績や意志の強さ、そして将来の見通しにいたるまで、ほとんどすべての領域で明るいイメージを抱いている。しかし、その他の体験領域については、自己評価のいくつかのアイテムで有意差が認められたものの、それが自己評価全体におよぶことはなかった。

どうして体験の領域によって自己評価との関連に強弱が生じるのか。その考察はもう少しのちで触れることにしたいが、理由はともあれ、「リーダーの体験」を持ち、「自然の体験」を重ねた、つまり、体験量の多い生徒の自己評価が明るいのは、表中のマークの示すとおりである。

(表18) 体験×自己評価(詳しくは表17)

→リーダーの体験と自然の体験が鍵

| 自己評価 体験 | テレビ視聴 | 勉強時間 | 勉強の成績 | 意志が強い | やる気がある | 有名高校進学 | 一流大学進学 | みんなに役立つ仕事 | 知識の必要な仕事 | 尊敬される仕事 |
|------------|-------|------|-------|-------|--------|--------|--------|-----------|----------|---------|
| リーダーの体験 | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 自然の体験 | | | △ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| 生活の体験 | | △ | | | | | | △ | | |
| 攻撃の体験 | ▲ | ▲ | | △ | | | △ | △ | | |
| 生死の体験 | | | | | △ | | | △ | | |
| ショック体験 | | | | | | | △ | △ | | |
| 体験トータル | | | △ | △ | ○ | △ | ○ | △ | △ | △ |

注) V係数

| | |
|----------------|-----------------------|
| 0.1以上.....○ | } 体験が増えると 自己評価が上がる |
| 0.8-0.99.....△ | |
| 0.6以上.....無印 | } 体験が減ると 自己評価が上がる |
| 0.7-0.99.....▲ | |

2. 自己評価を支える体験

体験のそれぞれの領域が、自己評価とどうかかわるのかを量化した形で示すために、表19に掲げたような数量化II類を試みた。これは「意志が強い」から「みんなから尊敬される仕事につける」までの8項目を、それぞれ外的基準とし、「リーダーの体験」から「攻撃の体験」までの6つの体験領域を要因として、数量化II類にかけたもので、表中の数値は偏相関係数を示している。

つまり「意志が強い・弱い」というような意識が、体験の中でもどんな体験を持つことにより規定されるのかを考えようとしているわけである。表中に係数の大きなものから順に番号をつけたので明らかと思われるが、「意志が強い」を除く、その他の7つの自己評価で、「リーダーの体験」と「自然の体験」が、大きな説明力を示している。

しかも、表20によると、「リーダーの体験」

や「自然の体験」に象徴されるようなさまざまな体験を重ねると、すでに紹介した「進学の見通し」や「将来の達成」などのような自己評価だけでなく、

- 2時間ぐらいいは立っていられると思う
- 外国へ行って皿洗いをしても生活できる
- 自分の考えをたくさんの友だちの前で発表できる

○友だちが多い方だと思う

など、生活の幅広い領域での自信に関連している。その他、体験を重ねた生徒の方が、クラブ活動に熱心に参加しているとの傾向も得られている。

つまり、体験を重ねることは、将来への見通しのような未来の展望だけでなく、現在の自分の体力や精神力、積極性などを強める働きをしているように考えられる。

(表19) 自己評価を支える体験(リーダーの体験と自然の体験)

数量化II類の偏相関係数

| 自己評価 体験 | 意志が強い | | やる気がある | | 学業成績 | | 有名高校進学 | | 一流大学進学 | | みんなに役立つ仕事 | | 知識や技術の必要な仕事 | | みんなから尊敬される仕事 | |
|----------------|-------|-------|--------|-------|------|-------|--------|-------|--------|-------|-----------|-------|-------------|-------|--------------|-------|
| | ① | 0.128 | ① | 0.177 | ① | 0.189 | ① | 0.171 | ① | 0.156 | ① | 0.128 | ① | 0.164 | ① | 0.158 |
| リーダーの体験 | ① | 0.128 | ① | 0.177 | ① | 0.189 | ① | 0.171 | ① | 0.156 | ① | 0.128 | ① | 0.164 | ① | 0.158 |
| 自然の体験 | 6 | 0.039 | ② | 0.076 | ② | 0.082 | ② | 0.130 | ② | 0.124 | ② | 0.067 | ② | 0.119 | ② | 0.079 |
| 生活の体験 | 3 | 0.049 | 4 | 0.033 | 3 | 0.060 | 3 | 0.074 | 3 | 0.078 | 4 | 0.052 | 4 | 0.034 | 5 | 0.038 |
| ショック体験 | 4 | 0.046 | 5 | 0.032 | 5 | 0.034 | 4 | 0.049 | 6 | 0.028 | 6 | 0.014 | 3 | 0.045 | 4 | 0.041 |
| 生死の体験 | ② | 0.062 | 3 | 0.059 | 4 | 0.052 | 6 | 0.011 | 4 | 0.072 | 5 | 0.033 | 6 | 0.018 | 6 | 0.036 |
| 攻撃の体験 | 5 | 0.046 | 6 | 0.022 | 6 | 0.051 | 5 | 0.024 | 5 | 0.069 | 3 | 0.055 | 5 | 0.024 | 3 | 0.043 |
| n ² | | 0.036 | | 0.052 | | 0.049 | | 0.056 | | 0.064 | | 0.042 | | 0.051 | | 0.047 |

注) 意志が強い～尊敬される仕事のそれぞれを外的基準とし、リーダーの体験～攻撃の体験の6アイテム、24アイテム・カテゴリーを要因として、数量化II類にかけた偏相関係数

(表20) 体験×自己評価

→体験を重ねると人間性にプラス

(%)

| 体験 | 自己評価 カテゴリ | 服装 きちんと | 時間を 計画的に | 計画を たて勉強 | 2時間ぐ らい立つ | 自分の考 えを主張 | 血洗いを しても外国 | クラブ・ 部活動 | 将来は 明るい | 友だちは 多い |
|-------------|--------------|------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------|-------------------|-------------------|
| | | いつも | いつも・ だいたい | いつも・ だいたい | きつと・ たぶん できる | きつと・ たぶん できる | きつと・ たぶん できる | 運動部 積極的 | とても・ かなり 思う | とても・ かなり 思う |
| リーダーの 体験 | ない | 32.4 | 30.1 | 11.5 | 26.2 | 6.8 | 21.6 | 39.4 | 31.8 | 35.9 |
| | あまりない | 36.6 | 33.3 | 11.6 | 32.7 | 7.8 | 23.7 | 43.3 | 33.6 | 39.4 |
| | 少しある | 41.8 | 37.5 | 16.0 | 36.6 | 13.5 | 28.5 | 54.7 | 36.4 | 48.1 |
| | ある | 49.6 | 45.3 | 20.8 | 44.1 | 26.8 | 36.4 | 57.9 | 42.8 | 58.0 |
| | V係数 | 0.100 | 0.089 | 0.072 | 0.099 | 0.178 | 0.095 | — | 0.067 | 0.116 |
| 自然の 体験 | ない | 40.1 | 37.0 | 12.9 | 24.5 | 7.3 | 21.3 | 42.2 | 30.3 | 37.8 |
| | あまりない | 43.2 | 40.7 | 13.9 | 35.2 | 11.2 | 25.7 | 46.4 | 36.5 | 43.6 |
| | 少しある | 38.0 | 36.2 | 17.0 | 37.4 | 15.4 | 26.9 | 55.1 | 35.3 | 48.1 |
| | ある | 40.9 | 34.1 | 16.9 | 46.8 | 22.7 | 37.7 | 58.9 | 43.4 | 53.8 |
| | V係数 | 0.055 | 0.057 | 0.055 | 0.134 | 0.147 | 0.114 | — | 0.080 | 0.107 |
| 体験トータル | ない | 36.2 | 35.8 | 14.4 | 26.8 | 6.1 | 18.1 | 42.9 | 31.7 | 37.3 |
| | あまりない | 40.4 | 36.2 | 12.1 | 33.6 | 10.4 | 25.2 | 50.4 | 34.6 | 44.8 |
| | 少しある | 40.7 | 37.3 | 15.3 | 36.3 | 15.5 | 29.6 | 51.7 | 36.5 | 47.9 |
| | ある | 45.0 | 38.9 | 18.8 | 44.8 | 25.0 | 39.1 | 52.0 | 43.1 | 53.6 |
| | V係数 | 0.061 | 0.049 | 0.067 | 0.113 | 0.153 | 0.133 | — | 0.073 | 0.104 |

3. どんな体験が意味を持つのか

さまざまな体験を重ね、そして、それを乗り越えていく。こうした蓄積が一人ひとりの生徒たちに自信を与え、自我像の高まりをもたらしている。しかし、これだけでは、大づかみに、体験の中でも「リーダーの体験」や「自然の体験」が大事であるということがわかっただけで、具体的にどのような体験を重ねることが自己像に影響を及ぼすのかが、いまひとつ明らかでない。

そこで、以下の分析では、今まで「リーダーの体験」のようにカテゴリ化した単位を基にして検討を加えてきた形を解体して、個々の体験の持つ意味を深めていくことにしたい。

まず、表21に目をとおしてほしい。これは「魚を網でとる」「カナヅチでクギを打つ」「屋根の上を歩く」を例にとって「仕事への達成意

欲」(将来、新しい知識や技術の必要な仕事につけるか)とのクロス集計を試みた結果である。○印が示すように「魚をとる」あるいは「カナヅチでクギを打つ」などの体験の多い生徒の方が、将来に強い意欲を抱くとの結果が得られている。

しかし、この表は体験のアイテムとして採用した58項目のうち3つを利用した分析なので、もう少し一般化した形で、自己評価の形成にどのような体験が関連するのかをとらえてみたい。結果は、表22のとおりだが、これは、以下のような手続きを経て作表してある。

- ①まず、自己評価のアイテムとして、学業成績から仕事への達成意欲までの5項目を選んだ。なお、尺度の作り方についておおまかな感じは注記したとおりである。

- ②次にそれぞれのクロス集計表にあたり、クラーターのV係数の大きなものから順に58項目を並べた。
- ③作表にあたってはV係数が0.1以上 (X^2 検定に直すと少なくとも5%レベルで有意)の項目をすべてリストアップした。
- ④そして、V係数の大きな項目から順に○印で順位をつけた。しかし、V係数値が0.1以上のアイテムが5つ以内しかない場合には○印をおとして、順位を5位まで掲げることとした。

表22から多くの解釈が可能であろう。しかし、ここでは3つの傾向を指摘しておきたいと思う。まず、58に及ぶ項目の中で、生徒たちの自己評価にもっとも強い影響を与えているのが

- 運動会でクラスのリーダーになる
- 学級委員になる
- 何百人もの人の前で話す

のような、いわば学校内でリーダー的な役割をとることで、そうした意味から言うと、生徒にとって学校生活の持つ重みはきわめて大きいということになる。考えてみれば、生徒たちの主たる生活の場は学校以外にありえない。したがって、そうした生活の場での体験が生徒たちの自己評価を高めるのは、当然の帰結とも言えよう。

もっとも、この点はもともと明るい自己像を持つ子どもがリーダーになったのであり、「リーダーの体験」を明るい自己像の結果とみなすことが可能であろう。しかし、ここでは、そうした可能性を認めつつも明るい自己像を

持っていた生徒が、リーダーの体験を重ねることにより、一層明るい自己像を持つようになったと、「リーダーの体験」の意味をとらえてみたい。

それと同時に表22の中で目をひくのは、学業成績が体験との関係に乏しい点で、具体的には表中の○印が示すように、学業成績の欄ではV係数が0.1以上のアイテムは4項目に限られ、しかもその4項目はいずれも学校内での体験ともいべき「リーダーの体験」で占められている。

もちろん、成績と体験との間に逆相関の傾向も得られていないので、勉強の得意な子どもが、特に体験に乏しいとは言い難い。しかし、そうした問題に関連して、表23に目をとめてほしい。確かに、成績のよい生徒たちは、有名高校や一流大学に入れているだけでなく、将来も知識や技術の必要とされる難しい仕事につけるだろうと、未来に意欲を燃やす、いわゆるよい生徒たちである。しかし、そうした生徒を支えているのは

- テレビを長い時間見ない
- 家事を手伝う割合が少ない
- 家庭学習をする時間が長い
- 塾通いをする割合が多い

に象徴されるように、勉強に精を出すと同時に、その他の行動を禁欲する態度である。つまり、中学生ともなると、好きなことを好きなだけしていたのではよい成績を望み難い。したがってトータルとしてみると、成績のよさは体験の乏しさを前提として成り立っているように考えられる。

(表21) 仕事への達成意欲×(個々の)体験

(%)

| 体験 達成意欲 | 魚を網でとる | | | | カナヅチでクギを打つ | | | | 屋根の上を歩く | | | |
|------------|-----------|-------------|------|-------------------|------------|-------------|------|-------------------|-----------|-------------|------|-------------------|
| | 1度も ない | 1-3回 ぐらい | 何回か | 数えきれ ない ぐらい | 1度も ない | 1-3回 ぐらい | 何回か | 数えきれ ない ぐらい | 1度も ない | 1-3回 ぐらい | 何回か | 数えきれ ない ぐらい |
| 弱い | 49.2 | 18.0 | 19.0 | 13.8 | 1.6 | 17.6 | 37.7 | 43.1 | 38.8 | 25.0 | 19.1 | 17.1 |
| やや弱い | 41.4 | 20.2 | 20.2 | 18.2 | 0.7 | 13.1 | 32.7 | 53.5 | 31.0 | 29.4 | 23.3 | 16.3 |
| やや強い | 35.8 | 22.2 | 21.1 | 20.9 | 1.3 | 13.0 | 32.5 | 53.2 | 30.0 | 28.0 | 23.4 | 18.6 |
| 強い | 32.7 | 16.1 | 23.1 | 28.1 | 0.8 | 9.3 | 25.6 | 64.3 | 24.8 | 30.2 | 16.6 | 28.4 |
| V係数 | 0.103 | | | | 0.096 | | | | 0.092 | | | |

(表22) 個々の体験×自己評価

→体験を重ねるとバイタリティが育つ

| 自己評価 体験(体験の領域) | *1 学業成績 | | *2 自己評価 | | *3 生活習慣 | | *4 バイタリティ | | *5 仕事への達成意欲 | |
|-------------------|----------|-------|---------------|---------|--------------------|---------|--------------|-------|----------------|---------|
| | 国語・数学の成績 | | 意志が強いやる気があるなど | | TVをだらだら見ない計画的に勉強など | | 2時間以上立っているなど | | 尊敬され知識の必要な仕事など | |
| 運動会のリーダー (リーダー) | ① | 0.155 | ① | 0.162 | ④ | 0.126 | ① | 0.184 | ① | 0.144 |
| 学級委員 (リーダー) | ② | 0.150 | ② | 0.102 | | (0.067) | ⑮ | 0.116 | 6 | (0.098) |
| 人前で話す (リーダー) | ③ | 0.105 | 6 | (0.086) | ⑨ | 0.102 | ④ | 0.155 | ② | 0.112 |
| 人前で歌う (リーダー) | ④ | 0.104 | | | ⑥ | 0.118 | | | | |
| 植物を育てる (自然) | 5 | 0.088 | | | ⑧ | 0.116 | | | ③ | 0.111 |
| クギを打つ (生活) | | | 3 | 0.095 | | | ③ | 0.161 | | |
| 屋根の上を歩く (自然) | | | 4 | 0.092 | | | ⑫ | 0.100 | | |
| 魚を網でとる (自然) | | | 5 | 0.092 | | | ⑥ | 0.152 | ⑤ | 0.103 |
| 先生にぶたれた (攻撃) | | | | | ① | 0.135 | | | | |
| ぞうさんがけ (生活) | | | | | ② | 0.129 | | | | |
| 洗たく物を干す (生活) | | | | | ③ | 0.127 | | | | |
| 洗たくをする (生活) | | | | | ⑤ | 0.125 | | | | |
| 暗い夜道を歩く (ショック) | | | | | | | ② | 0.182 | | |
| 1日10キロ歩く (自然) | | | | | | | ⑤ | 0.154 | | |
| 川で泳ぐ (自然) | | | | | | | ⑨ | 0.149 | ④ | 0.104 |
| 廊下に立たされる (攻撃) | | | | | ⑦ | 0.117 | ⑮ | 0.102 | | |
| 雨中を歩く (自然) | | | | | | | ⑦ | 0.151 | | |
| 傘がオチョコになる (自然) | | | | | | | ⑧ | 0.151 | | |
| 友ととっくみあい (攻撃) | | | | | | | ⑩ | 0.137 | | |
| カエルにさわる (自然) | | | | | | | ⑪ | 0.136 | | |
| セミをとる (自然) | | | | | | | ⑫ | 0.130 | | |
| 電気なしの生活 (自然) | | | | | | | ⑬ | 0.125 | | |
| たき火をする (自然) | | | | | | | ⑭ | 0.122 | | |
| 魚を焼く (生活) | | | | | | | ⑮ | 0.111 | | |
| 人をたたく (攻撃) | | | | | | | ⑰ | 0.103 | | |
| 靴みがき (生活) | | | | | | | ⑱ | 0.101 | | |
| カンヅメを開ける (生活) | | | | | | | ⑳ | 0.100 | | |
| V≥0.1以上の数 | 4 | | 2 | | 9 | | 21 | | 5 | |

注) *1 英語と数学の自己評価=(とても得意~とても苦手、6段階)を加算して、4つのカテゴリーにRECODE

*2 自己評価=「自分の将来は明るいと思う」など、13アイテム(とてもそう思う~ぜんぜんそう思わない、5段階)を加算して4つのカテゴリーにRECODE

*3 生活習慣=8アイテムを加算して、4つのカテゴリーにRECODE

*4 バイタリティ=9アイテムを加算して、4つのカテゴリーにRECODE

*5 仕事への達成=2アイテムを加算して、4つのカテゴリーにRECODE

(表23) 学業成績×自己評価

→成績のよい子は模範生

(%)

| 自己評価 | | 学業成績 | 苦手 | やや苦手 | やや得意 | 得意 | V係数 |
|------------|----------|------|------|------|------|------|-------|
| テレビ視聴 | 1時間半以内 | | 12.5 | 16.1 | 14.6 | 24.8 | 0.126 |
| 家庭学習 | 2時間半以上 | | 10.2 | 14.6 | 11.4 | 18.3 | 0.093 |
| 服装きちんと | いつも | | 32.9 | 35.1 | 42.2 | 48.4 | 0.113 |
| 計画的に勉強 | いつも・だいたい | | 12.0 | 18.4 | 20.1 | 23.7 | 0.112 |
| 時間をうまく使う | いつも・だいたい | | 10.2 | 11.7 | 15.6 | 20.8 | 0.107 |
| 有名高校進学 | 絶対・たぶん | | 11.8 | 22.9 | 27.4 | 45.1 | 0.225 |
| 一流大学進学 | 絶対・たぶん | | 13.7 | 20.3 | 26.2 | 36.7 | 0.188 |
| 知識の必要な仕事 | 絶対・たぶん | | 11.2 | 12.1 | 14.5 | 23.1 | 0.161 |
| 尊敬される仕事 | 絶対・たぶん | | 12.6 | 12.0 | 13.6 | 21.4 | 0.145 |
| 小1~2 けいこごと | 通っていた | | 45.5 | 56.0 | 57.1 | 65.5 | — |
| 現在学習塾 | 通っている | | 39.0 | 49.1 | 50.9 | 53.4 | — |
| 家事手伝い | していない | | 21.8 | 22.5 | 22.6 | 31.9 | 0.069 |

4. 体験とバイタリティ

ここで、もう一度、表22へ戻ると、表中で目につくのは、成績とは対称的に、体験を重ねることが大きな意味を持つのは、本人のバイタリティに関する自己評価で、「トンボやセミをとる」「屋根の上を歩く」「川で泳ぐ」など、主として「自然の体験」を豊富に持つ生徒は、自分のバイタリティに自信を抱いている。

しかも、表24によるとバイタリティのある生徒は、成績のよい生徒ほどにはテレビ視聴を禁欲的に制限したり、家庭学習を長時間がらばったりはしない。したがって、バイタリティがあるからといって、必ずしも国語や数学の勉強が得意ということはない。しかし、バイタリティのある生徒は、自分自身をやる気があり、意志が強く、友だちや先生から信頼され、明るい、と評価している。そして、

高校や大学進学はむろんのこと、将来についても、がんばればなんとかなるという見通しを抱いている。バイタリティについてのこの結果を、もう一度、表22と関連させて考えるなら、

自然や生活について、さまざまな体験をつむ



自分のバイタリティに自信がわく



現在はもちろん未来についても明るい自己像を持てる

のような結論が得られよう。

現在の生徒たちは、たくましさに欠け、閉ざされた自己像を持つと言われる。そうした

状況を視野に入れると、生活体験を重ねることは、バイタリティを伸ばすだけでなく、自己像を明るくさせ自分自身に自信を持てる子どもを育てるという意味で現代の生徒の弱点を克服するための特効薬のように考えられる。

また、表25によると「一人でごはんをたく」や「リンゴやナシの皮をむく」などの体験を重ねた生徒や、「2時間ぐらいなら立っていられる」「一晩ぐらいなら歩ける」など自分のバイタリティに自信を持つ生徒は、身の回りに、たくさんの物を持っていない者に多いという

結果が得られている。換言するなら、子どもをとりまく生活環境が豊かになるにつれて、生徒たちの体験が乏しくなり、そして、バイタリティが失われていく傾向が見受けられる。

こうした結果を、より一般化した形で展開するならば、豊かな社会の到来した現在、これから先、生徒たちの巣ごもり状況が進展すると反比例する形で、生徒たちの体験量が減り、それと同時にバイタリティに欠ける生徒が急増する可能性が強い。

(表24) バイタリティ×自己評価

→バイタリティのある生徒は意欲にとむ

(%)

| 自己評価 | | *バイタリティ | ない | ややない | ややある | ある | V係数 |
|----------------------|--------|-----------------|------|------|------|------|-------|
| テレビ視聴 家庭学習 部活動 | | 1時間半以内 | 15.6 | 17.4 | 17.6 | 20.0 | 0.081 |
| | | 2時間半以上 | 10.5 | 13.2 | 15.2 | 17.7 | 0.071 |
| | | 運動部に積極的 | 42.0 | 47.0 | 55.5 | 55.9 | — |
| 学業成績 | 国語 | とても・かなり得意 | 6.9 | 9.2 | 11.9 | 12.3 | 0.073 |
| | 数学 | | 9.0 | 12.9 | 15.5 | 15.6 | 0.102 |
| | 体育 | | 11.4 | 20.6 | 27.6 | 36.3 | 0.196 |
| | 社会 | | 5.6 | 9.4 | 15.0 | 19.0 | 0.136 |
| | 理科 | | 5.5 | 7.7 | 17.0 | 19.2 | 0.140 |
| 有名高校進学 | | 絶対・たぶん | 14.5 | 26.3 | 31.3 | 41.8 | 0.142 |
| 一流大学進学 | | 絶対・たぶん | 10.6 | 22.0 | 29.5 | 40.3 | 0.173 |
| 知識の必要な仕事 | | 絶対・たぶん | 8.3 | 12.9 | 15.6 | 28.7 | 0.183 |
| 尊敬される仕事 | | 絶対・たぶん | 7.3 | 12.8 | 15.6 | 26.9 | 0.158 |
| 自己評価 | 明るい | とても・かなり そう思う | 26.7 | 33.4 | 42.0 | 45.9 | 0.119 |
| | 意志が強い | | 18.3 | 17.5 | 25.7 | 35.5 | 0.149 |
| | やる気あり | | 15.8 | 19.7 | 29.7 | 41.3 | 0.156 |
| | 先生から信頼 | | 7.7 | 8.0 | 11.8 | 17.4 | 0.127 |
| | 友だち多い | | 33.0 | 42.6 | 53.5 | 55.6 | 0.138 |

注) *「バイタリティ」=「一晩中、寝ないで歩きつづける」「両親がいなくとも一人でなんとか暮らしていける」などの9項目それぞれに体験の頻度を得点化して乗じたものを加算してバイタリティがない、ややない、ややある、あるの4つに分類した

(表25) 持ち物×体験

→物を持つようになると体験が減る

(%)

| 体験 | 持ち物 | 持っている | | 持っていない | | V係数 |
|----------------|------------------|-------|--------|--------|--------|-------|
| | | たくさん | わりと | あまり | ほとんど | |
| 体験(なん度もしている) | 靴みがきをする | 12.9 | < 15.3 | < 18.6 | < 25.3 | 0.185 |
| | 植物を育てる | 8.6 | < 10.3 | < 12.0 | < 14.6 | 0.156 |
| | 1人でごはんをたく | 12.7 | < 15.8 | < 20.0 | < 21.3 | 0.141 |
| | リンゴやナシの皮をむく | 35.7 | < 40.3 | < 44.2 | < 49.7 | 0.133 |
| | 雨の中でビショぬれになる | 22.4 | < 24.1 | < 26.2 | < 33.5 | 0.129 |
| バイタリテイ(きつとできる) | 人前で自分の意見を言う | 8.0 | < 9.5 | < 11.8 | < 18.3 | 0.114 |
| | 難破しても生き残れる | 10.7 | < 11.8 | < 15.0 | < 24.7 | 0.105 |
| | 火事の中でも生き残れる | 11.9 | < 13.7 | < 16.9 | < 24.2 | 0.096 |
| | 血洗いをしてもアメリカで暮らせる | 21.5 | < 24.7 | < 30.5 | < 36.2 | 0.096 |
| | みんなを説得できる | 10.3 | < 11.5 | < 17.0 | < 18.5 | 0.090 |
| | 2時間ぐらい立ってられる | 31.9 | < 32.9 | < 35.4 | < 41.7 | 0.069 |
| | 一晩中寝ないで歩ける | 1.9 | < 12.3 | < 14.6 | < 21.9 | 0.073 |

注) 持ち物=ラジカセ、カメラ、電卓、楽器、ステレオ、皮靴の所持数の合計

| | | | |
|----|-------|--------------|----------|
| なし | 7.8% | } 27.5%—ほとんど | } 持っていない |
| 1つ | 19.6% | | |
| 2つ | | } 24.6%—あまり | } 持っている |
| 3つ | | | |
| 4つ | 14.6% | } 24.5%—たくさん | |
| 5つ | 7.1% | | |
| 6つ | 2.8% | | |

第IV章 人間形成の中での体験



1. 体験の重み

今まで考察してきたように、全般的に生活体験の乏しい中で、豊富な生活体験を持つ生徒が、バイタリティを中心に自分自身に明るいイメージを持つことをデータの面から裏づけてきた。

しかし、これまでの分析では、生活体験と自己評価とをストレートに結びつけて、結論を出しすぎたような印象を受ける。そこで、もう一度トータルとしての中学生をイメージに置いて、その中で体験の持つ重みを考える作業を行ってみよう。

表26は「意志が強い」から「みんなから尊敬される仕事につける」までの8項目をそれぞ

れ外的基準とし、「リーダーの体験」から「家庭の収入」までの13アイテムを要因として、外的基準を支える要因の重さを調べようとした結果である。なお、分析のために利用した要因は、大別して、

① 基本的な属性＝学校、学年、性など

② 体験の領域＝「リーダーの体験」などから構成されており、当然のことながら、自己評価の形成に、体験の重みが、学年や性などの基本的な属性と比べて、どの程度に達するのかが関心の焦点となる。また、表中の数値は偏相関係数で、読みとりやすさを考えてそれぞれの外的基準ごとに、説明力の大きな

(表26) 自己評価を支える変数

→学校差や成績などの持つ意味は大きい

(偏相関係数)

| 自己評価 体験・属性 | | 意志が 強い | やる気が ある | 学業成績 | 有名高校 進学 | 一流大学 進学 | みんなに 役立つ 仕事 | 知識・技 術の必要 な仕事 | みんなか ら尊敬さ れる仕事 |
|----------------|---------|-----------|------------|---------|------------|------------|-------------------|---------------------|----------------------|
| 体 験 | リーダーの体験 | ① 0.144 | ① 0.145 | ① 0.180 | ③ 0.127 | ⑤ 0.101 | ① 0.129 | ① 0.138 | ① 0.138 |
| | 自然の体験 | 0.038 | 0.064 | 0.051 | ⑤ 0.094 | 0.093 | ③ 0.085 | ⑤ 0.074 | ⑤ 0.081 |
| | 生活の体験 | 0.052 | 0.037 | 0.043 | 0.059 | 0.072 | 0.057 | 0.053 | 0.041 |
| | ショック体験 | 0.045 | 0.026 | 0.038 | 0.056 | 0.021 | 0.033 | 0.068 | 0.048 |
| | 生死の体験 | 0.075 | 0.058 | 0.039 | 0.020 | 0.069 | 0.035 | 0.027 | 0.032 |
| | 攻撃の体験 | ③ 0.040 | 0.021 | 0.022 | 0.032 | 0.028 | 0.067 | 0.039 | 0.070 |
| 学 校 | ② 0.092 | ② 0.107 | ③ 0.124 | ④ 0.124 | ① 0.177 | ② 0.096 | ③ 0.103 | ③ 0.093 | |
| 学 年 | 0.014 | 0.054 | 0.011 | 0.091 | 0.044 | 0.064 | 0.051 | 0.046 | |
| 性 | 0.035 | 0.017 | ② 0.157 | ② 0.177 | ③ 0.119 | 0.033 | ④ 0.087 | ④ 0.081 | |
| テレビ視聴 | ⑤ 0.062 | ⑤ 0.065 | ④ 0.094 | 0.072 | ④ 0.114 | ④ 0.075 | 0.071 | 0.062 | |
| 部 活 動 | 0.019 | ④ 0.087 | 0.080 | 0.060 | 0.030 | 0.055 | 0.052 | 0.046 | |
| 成 績 | 0.064 | ③ 0.096 | — | ① 0.232 | ② 0.169 | ⑤ 0.068 | ② 0.121 | ② 0.123 | |
| 家庭の収入 | ④ 0.067 | 0.005 | ⑤ 0.091 | 0.063 | 0.030 | 0.055 | 0.042 | 0.078 | |
| n ² | 0.067 | 0.086 | 0.089 | 0.170 | 0.154 | 0.087 | 0.094 | 0.101 | |

要因から順に1位から5位までに○印をつけた。

この表から、いくつかの傾向を読みとることが可能であろうが、まず、学業成績や性が大きな説明力を示しているのが目につく。もっとも、高校進学や大学進学、そして、将来の仕事など、いわば成績と関係の深いアイテムを外的な基準としているので、成績の説明力が大きいのは、ある程度当然のように考えられる。

また、学校差の説明力が大きいのも注目される。しかし、この学校差は地域差に学校差

が加わる形で生じており、厳密な分析を行うためには、同一地域の学校を比較する、あるいは地域類型を明確に設定した上で対比を試みる、などのサンプル構成が必要であろう。

そうした傾向の中で「リーダーの体験」や「自然の体験」が、学校差や性別などの基本的な属性と同じ程度、またはそれ以上の大きな説明力を持っていることを重視したい。なぜなら、体験を持っているかどうか、学年や性などの属性を越えて生徒たちの自己像の形成に強い影響力を及ぼしているのが、表中の数値から読みとれるからである。

2. 将来の職業に関連させて

もう少し分析を進め、将来の生き方と生活体験との関連を掘り下げてみよう。調査票の中で14対の仕事を示して、どちらの仕事に向いていると思うかを尋ねてみた。詳しい数字は、巻末の集計表に目をとおしてほしいが、生徒たちによると、

（「その仕事に向いている」
と答えた生徒の割合）

| | 男子 | 女子 |
|-------------|-----|-----|
| 知っている人とする仕事 | 78% | 77% |
| 落ちついた地味な仕事 | 76% | 71% |
| 主に身体を使う仕事 | 70% | 73% |
| 物を取り扱う仕事 | 70% | 52% |
| 平凡なふつうの仕事 | 69% | 83% |

のように「親しい人といっしょに身体を動かす平凡な仕事をするのが向いている」という。

しかし、少数派とはいふものの生徒たちの中には、「責任のある難しい仕事」(42%)や「社会的地位の高い仕事」(31%)に向いていると思っている者がみられる。そこで、14対、計28のアイテム・カテゴリーを数量化Ⅲ類の技法を用いて平面上にドットさせると、図1のような結果が得られる。図は、X軸にⅠ軸、Y軸にⅡ軸をとってあるが、このうちⅠ軸は、職業の難易度を示し、Ⅱ軸は人との接触の量を意味している。

そこで両軸を交叉させて職業の適性を類型化すると、図2のとおりとなる。まず、第一象限に、人と接する機会が多く難しい仕事ということで、弁護士や大企業の管理職などが具体的な職業としてイメージに浮かんでくる。第Ⅱ象限は、人と接する機会が多いが、難しい仕事で一例を挙げるなら、セールス、受付の事務などが考えられる。

第Ⅲ象限以下のコメントは省略するが、こうした意味を持つ平面の上に「リーダーの体験」や「自然の体験」「体験トータル」などのカ

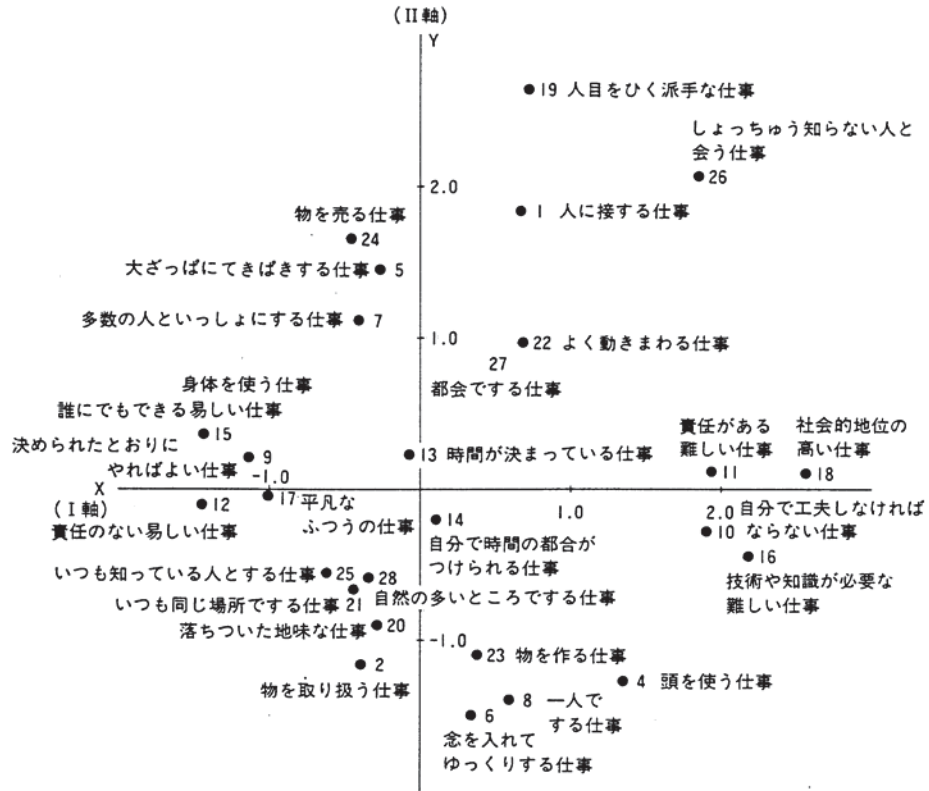
テゴリー・スコアをのせたのが、図3である。

図中のプロフィールが示すように、「リーダーの体験」が増すほど人間関係に自信を持つことができる。それに対し「自然の体験」を豊富に持つ生徒は、人間より機械相手の仕事を好むなど、体験を重ねる領域により、適性に対する評価が異なってくる。しかし、いずれにせよ、体験が増すにつれて、難しい仕



事につくのに向いている。換言するなら、そうした仕事をこなしていけるとする者の割合が増加しているのは明らかであろう。なお、図4のバイタリティについては、カテゴリー・スコアが左から右へ、つまり、バイタリティが増すにつれて、将来への意欲が強まることを意味している。

(図1) 仕事への適性

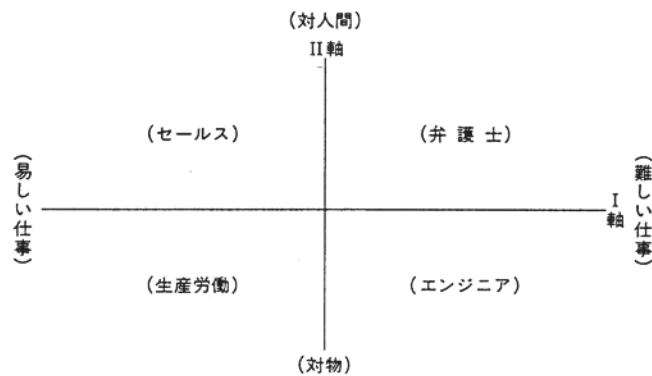


注) I軸 (仕事の難易度) { プラス 社会的な地位の高い仕事
技術や知識の必要な難しい仕事
マイナス 誰にでもできる易しい仕事
責任のない易しい仕事

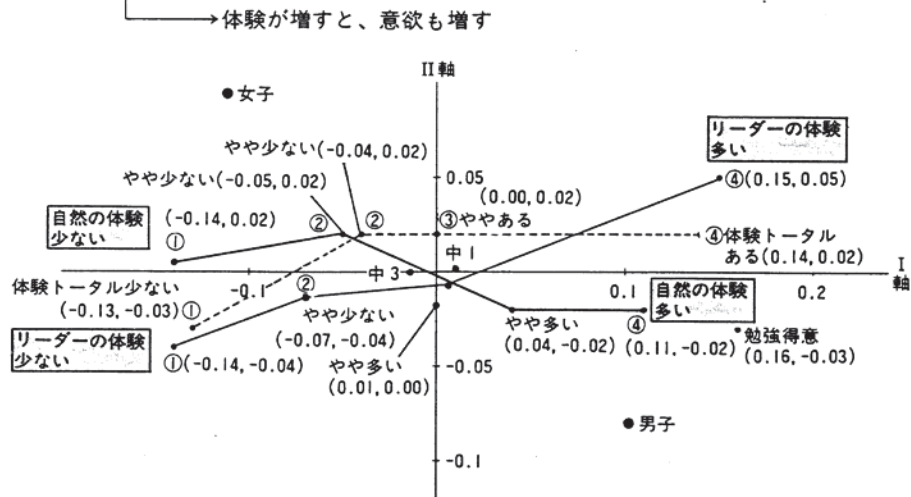
II軸 (人との接触の量) { プラス 人目をひく派手な仕事
知らない人と会う仕事
マイナス 念を入れてゆっくりする仕事
一人でする仕事

個々の項目については調査票見本参照

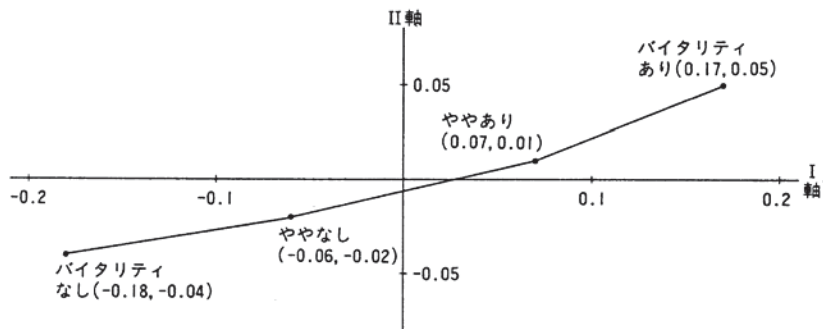
(図2) 適性の枠組



(図3) 体験のカテゴリー・スコア



(図4) バイタリティのカテゴリー・スコア



ま／と／め／に／代／え／て

あらためて言うまでもなく、体験とは、生まれてから現在まで、その生徒がトータルとして経験したことのすべてを意味している。当然、地域や家庭、学校などにより体験の開きが大きいと考えられる。それだけに、調査結果の信頼度を高めるためには、今後マクロで組織だったサンプルの抽出が必要とされよう。

しかし、限られたサンプルを対象とした調査であるにしても、本調査によれば、「リーダーの体験」や「自然の体験」を豊富に持っている生徒は、バイタリティに富んでいるだけでなく、現在、そして、未来に対して明るい自己像を抱いていた。逆に体験に乏しい生徒たちの自己像が暗く、そして閉ざされていたのは今までのデータの示すとおりである。

考えてみると、長い間、われわれおとなたちは、子どもがさまざまな体験を重ねつつ成長していく姿を当然のこととみなしてきた。そうした中で、学校は直接体験にとり囲まれた生徒たちに、知識という間接体験を伝達するのを使命として発達してきた。特に日本の

学校は、急速な近代化を図るために土着の文化と隔絶した西欧の知識の伝達を目的として成立したので、なおのこと知識伝達型の性格が強かった。それでも子どもたちが豊富な体験を持っているなら、学校は、そうした体験の歪みを是正する意味で、独自の機能を果たし得よう。

しかし、現代の子どもたちは、遊び友だちを持たず、テレビやマンガを友とするか、あるいは自分の部屋の中で勉強をするか、の生活を送って中学生時代を迎えている。つまり、やや図式化したとらえ方をすると、テレビやマンガなどの間接体験の肥大と、このレポートで触れたような直接体験の縮小という谷間の中で子どもたちは成長している。それだけに、子どもたちにさまざまな形の直接体験を積ませることの必要性を痛感する。しかし、そうした場をどこに求めたらよいのだろうか。

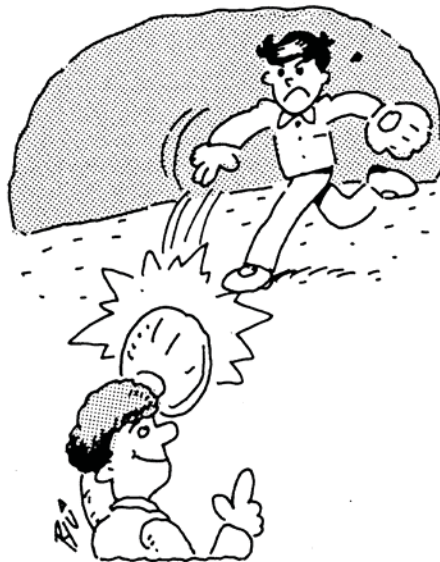
残念ながら学校は、本来知識や技術を伝達する場であり、体験を積む場としては適していない気がする。考えれば当然の話で、魚とりをしたり、はだして歩いたり、屋根の上を

歩くなどは、学校の主たる目的になりえない。

したがって、かつての子どもたちがそうしていたように、地域の中でギャング集団を組み、遊びをとおしてさまざまな体験を重ねるのが理想的な姿であろう。その次に家庭の中で、家事を手伝わせる、あるいはファミリー・スポーツをするなどの形で体験を積むのが望まれよう。

しかし、現在の地域が、子どもたちの生活空間として機能していないのは周知の事実であろうし、家庭が生活の場としての働きを喪失し始めたこともよく知られている。このように子どもたちに生活体験を積ませる具体的な方策を見い出せないままに、子どもの人間形成の土台を形づくる体験が、年々失われているのが、現実の姿である。

体験を積むという、いわば、学校教育の前提となる部分の欠落が進んでいる。しかも、具体的な対策を打てないまま、状況は悪化の一途をたどっている。したがって、学校としても、体験を積ませるのが学校の主目的でないのは確かではあるが、体験を増加させるた



めに、地域や家庭にさまざまな形での働きかけをすることが望まれよう。それと同時に、学校としても学校裁量の時間や学校行事、学級会活動などの時間を活用して、生徒たちに生の体験を積ませる方策も考えるべきであろう。

生きていく力があって初めて学習したことが役立つ。生活体験の持つそうした重みを十分にかみしめて、体験を視野に入れた教育計画の作成を強く望みたいと思う。